一陽会会報

ICHIYO

No.49
2014.4

視点 21

私の一陽会、59回展が過ぎ 60回展へ向けて

絵画部運営委員　大 場 吉 美

私が、ものごとの本質をしっかりと認識できない中学生の頃、田辺栄次郎先生と中村秀雄先生に出会いました。二人共、今は故人となられています。お二人のアンフォルメルの作品に、子供心ながら、なんとも言えない興奮を覚えました。それが、私の一陽会との出会いでした。その後、中村先生と世界の美術シーンや刺激的な一陽会作品の話題を、熱っぽく語り合うことがありました。

一陽会の理念は、いつも私にとって創造行為の本質を突く文脈だと思っています。それは、絵画・彫刻だけにとどまらず、すべて表現活動に問えることだと認識しています。自分らしい独自の創造表現の「現在」を求めることと理解しています。それを素直にうたっていて気持ちが良いです。

人間感情の起伏や、森羅万象のことどもまで、芸術活動には、すべての関係性と繋がりが内在しています。そのような現実の中で、どのように暮らし生きるかを考えつつ、表現活動をしてきました。何も分からない中学時代から今まで、それなりに一陽会で活動してきましたが、一陽会はなんと素晴らしい美術団体なのかと、いつとはなしに感じている自分に気がつきました。

多くの先達たちが一陽会で活動し、誰もが、時には口角泡を飛ばし、また抱き合い興奮し、喧嘩もしました。そして、有頂天になり、絶望もし、我慢もしました。それでも、所属しているメンバーは、やはり一陽会が好きだと思います。

過日の59回展では、審査会にはじまり、陳列と懇親会や会期中など諸々の運営のことも含めて、明るい風通しの良さを感じました。各地域のメンバーの忌憚のない意見交換も前向きに行われました。

一陽会の発足の記憶である鈴木信太郎、野間仁根、高岡徳太郎、植木力の各諸先生への尊敬と顕彰を込めた思いを、事務所担当の細川尚委員が語られました。感動でした。一陽会理念の思いと先達への感謝の心は、いつの時代でも大切なことです。組織体としての原点を確認することになります。折々の創造理念とは別次元です。表現様式や画風、創造哲学の相違は必然です。芸術は個人が単位です。ひとり一人の相違がなければ独自性の消滅です。しかし、美術団体として、大きな方向性として表現様式の奥行きや広がりは、その折々のリーダーや運営グループが指し示すことはあると思います。それは、美術団体としての組織運営と経営戦略と言えます。なぜならば、多様な表現手法が存在し、しかも世界的に美術情報が受発信されている時代です。幅をもちながらも柔らかくまとまって、団体組織として発信していくべきです。その意味でも、59回展の提案や様子は、重要な変わり目を感じました。

一方、美術団体としての存在意義をどうみるかです。ひとつの美意識による強い主張の運動体としての美術団体や、人気のある作家を多く輩出していく美術団体を求めるかです。理想的にはその方向だと誰もが期待します。が、それを強めれば、尖った美術家が多くなり、自然と運営が激しくなり、少人数の団体へと収縮するのは明らかです。運営自体に困難が発生します。だから、切磋琢磨の環境でありながらも、他者を認め穏やかに仲間づくりをしていくことが大切となります。団体維持発展のための人格「団体格」と規模の問題です。

経営戦略は企業だけの話ではありません。一陽会も組織体である以上は、経営戦略を、しっかりと考える必要があります。一陽会理念にある、「時代の現在を表現する魅力の様式」を求めること。その上にのって、出品者を増やし財務を強くして将来の発展を意図することです。文化活動にも経済の視点は外すことは出来ません。

個人を尊重した創造行為を一番とする私たちには、組織感覚は不得手な分野となりますが、現在の事務所や、補佐されておられる多くの皆様によって、適切に進められていると思います。

一陽会の理念と目的、規模の想定、財務バランス、組織体の構築、イメージやブランドづくり、広告宣伝、教育研修、会員の増強、ファンづくりなども政策として確認する必要がありそうです。しかし、それを推進することの是非も議論しながら、誰がどのようにどのような仕組みで進めるかなど、全国支部及びグループを含めた組織体構築の点検が求められるのではないでしょうか。しかし、60回まで持続されていることは、そのような運営主体が存在してきたことの証でもあります。いまさら堅い主張は、必要のないことかも知れませんが。素朴にリードされて参加してきただけの私としては、自身が納得できる作品作りに心がけてきただけでは、いけないのかどうか。永く学び育てて頂いた一陽会のメンバーのひとりとして、どう対応すれば良いだろうかと案じながら、60回展を迎えています。皆様はいかがですか。

一陽会 彫刻部に想う

彫刻部運営委員　神 山 茂 樹

「自分が喋らず、彫刻に喋らせてみろ」

と、一陽会への出品を勧められたのは、恩師が亡くなる数ヶ月前のことでした。その言葉が頭に残り、右も左もわからぬまま、翌年の36回展に等身大の家族像三体を一組として出品しました。幸いに特待賞を受賞しましたが、三体が無関係に距離を置いて展示されていました。絵画とのかねあいでそうなったのかと思いましたが、自分の制作意図とはかけ離れていたため、いろいろ交渉の末三体一組に戻してもらいました。元に戻しても、絵画には何の影響をも及ぼしていないのを見て、三体一組の意図が伝わっていなかった、つまり、彫刻が喋っていないのだと当時大いに反省したものです。その後24年間、一陽会に出品し続け、それなりに自分の作品の方向性も見えてきたようです。

都美術館から移動して7年目の59回展では、新しい試みが多く見られました。例えば第2室と7室のレイアウト変更、賞の増設、長年望んでいた図録の宣言文やスカラベマークの復活などです。展示会場についても、大空間の第1室は照度を下げることにより落着いて鑑賞出来る環境になったと思います。特に第3彫刻室は、作品ごとにスポットを当てるなど照明を生かした会場作りで、他の団体展に見られない魅力的な展示空間になっています。展示数が少ないのではと言う声も聞きますが、どんな小さな作品でもその作品が占める周囲の環境を大切にすべきです。作品の展示とは、展示場を数や大きさで埋めることではなく、空間を構成するという意識が必要だと考えます。他の会には見られない絵画の中に彫刻の小品を置く展示方法は、互いを引き立てるとともに、第3室にゆとりをもたらすことにもなっています。また、伝統ある野外展示場の灯を消さぬよう、毎年野外に耐えうる作品を出品し続けている作家諸氏には頭が下がります。若いチャレンジャーの出現に期待しています。今年の60回記念展に向けては様々な企画や提案があろうかと思われます。言い尽くされたことですが、各自が一陽会を支えている意識で、より良い作品を出品すれば自ずと魅力的な展覧会になると確信しています。

「量よりは質を、醜よりは美を。情熱と理想。幻想と詩心。熱心と誠実。鈍重にして執拗。鋭敏にして深刻。清新にして深奥なるものの創造に勉励し、新時代の美術を推進せんとする。制作上なんらの制約によって拘束されることなく尖鋭なる未完成をこそ推薦し、前人未到の新分野の確立に努力する。」

この、創立会員の若々しい宣言文は、一陽会の一員たるもの心に留めおくべきことと心して、今年の制作に入りたいと思います。

版画部の一員として

版画部会員　小 澤 美 雪

2014年60回記念一陽展を迎えます。2007年から国立新美術館に移り8回目となり、真白い壁、高い天井、広々とした展示空間で圧倒されました。

一陽会という美術団体のジクソーパズルのワンピースの制作が果たせているのか…、後悔を感じながら新たな会期が来てしまっています。また、事務所や運営の仕事も担ってくださる大勢の先輩たちのご尽力のお働きがあって、今日があることに感謝の念が湧いてきます。先生方のご好意に甘え、ご教示、ご指導いただき「もらう幸せ」ばかりの私ですが、少しは奮闘できるようになって、「なぜ絵が描きたいのか」「なぜ出品するのか」と、インスピレーションとパースピレーションを繰り返しながら、なんとか制作しています。

59回展で90才台の大先輩の先生と会場当番の折、挨拶だけでなく、長い会話をしていただく機会に恵まれました。初めての貴重な経験となりました。制作の智慧、戦争体験、日常生活で感じられること等をお聴きして、先生の好奇心に感動しました。

一陽会の他界された先生方が想い出され、皆様で会場にいらしてくださっている懐かしい気配がいたました。

一陽会も私も、一人ひとりが、さらに新しい力を生み出す時が来ているのかもしれません。私は長く所属しながら、人を見ず、話も聴かず、関わることもせず過ごしてしまうならば、成長も成就も叶うはずはありません。他人にしてさしあげることも経験しながら、自らを変化させていきたい。励まし合い、支え合い、互いの良さを引き出し合う関わりに至るような響働する一陽会の一人になれるように願っています。

60回展に向けて、未熟者ですが、大先輩たちを見失わず、願いと結びついた目的と使命を忘れず、正しく精進できるように務めます。よろしくお導きくださいますようお願い申し上げます。有難うございました。

◎表紙写真／福田利明委員・福家省造会員

鈴木信太郎賞

絵画部会員　大東明宏

2000年の夏、イスラエルを訪れた。日本の四国ほどの面積の土地に2つの国が存在するという、矛盾を背負った場所に我が身を置くことで、パレスチナのことに強い関心を持つようになった。そこから自分の絵の中に、アラブ的な要素が入ってきた。

3年前には、アゴタ・クリストフの「悪童日記」を読み、衝撃を受けた。子供の目を通した"戦争"を、子供の日記というスタイルで、それも淡々と書かれていることが鮮烈だった。その時から、今度は子供や兵器が画面の中に入るようになった。「反戦」というものを軽々しく絵で表現したいとは思わない。子供の視線から見えるひとつの物語をしばらくは描いていきたい。今回の受賞は、大きな勇気をいただいた。感謝。

高岡徳太郎賞

絵画部会員　逢坂清悦

17年前の第42回展特待賞受賞の際の一陽会会報原稿を一部掲載いたします。

作品「あてるい」について

「まつろはぬもの（従わないもの）」と畏れられ、さげすまれた東北の蝦夷たち

黄金のために殺戮と破壊を繰り返した中央

大地と家族を守り、東北の未来を見据えた蝦夷の族長「あてるい」

時代は変わっても決して変わらない「不易」

時代とともに変わっていく「流行」

歴史に足跡を残した「あてるい」というイメージを借りて、現代における「不易」と「流行」を自分なりに追い求めていきたい

3.11の東日本大震災。東北の地に生きるものとして、まだまだ画題としての「あてるい」は完結できていません。受賞を機に、好きな言葉「而今(じこん)」を大切にして、一陽会の「朱」と成れる作品を東北最北端の青森県からお送りいたします。

野間仁根賞

絵画部会員　吉村雅利

かつて一陽会で野間賞が設けられたのは1980年、私が初出品した第26回展であり、その年の受賞者は我が師、母校の美術教諭であった土嶋敏男氏であった。私は良い弟子ではなかったので『10年は同じテーマやモチーフを続けたほうがいい』という師のアドバイスにも耳を貸さず、描くたびにテーマもモチーフも変えた。そのため、会場では『吉村君の作品どれ？』『変ったね！』と毎年同じやりとりを繰り返してきた。

私の制作は、新しい自分を見つけるための実験である。描くたびに視点も材料も変わり、油彩、テンペラ、アクリル、水墨、木炭、鉛筆など、気分次第で何でも使ってきたが、今回の作品は、30年以上続けてきたレオナルド・ダ・ヴィンチと美術解剖学の研究、そして実験映像から学んだ視覚表現をこの一枚に集約した。

植木　力賞

彫刻部運営委員　三輪乙彦

初めて創設された「植木力賞」の思いもよらぬ受賞におどろきました。60周年を前にして最後の作品になるのではと意識し、思索し制作してまいりました。

想えば、小生第2回展から出品し、当時搬入は旧都美術館で、会場は日本橋の高島屋でした。中村輝先生のご紹介で、彫刻部創立会員の植木力先生にお会いすることができました。彫刻家としての風貌が今も印象深く浮かんでまいります。

そして、たしか第18回展の折、旧都美術館の審査室で植木先生が「会員の作品も一緒に審査を」と、初めての私はどきっとしました。実現はしませんでしたが、きびしい雰囲気が漂っていました。また反面若い人達を常に温かく見守り、育てていこうとする心配りを感じました。

このたびの受賞は植木先生からの「励ましのメッセージ」と思い大切に、60周年にふさわしい作品を創りたく思います。

第59回展　受賞者紹介

スカラベとは……???

別名タマオシコガネ、コガネ虫科の甲虫の一種。ファーブルの『昆虫記』で有名。この虫を意味する語が生成の意味にも通じ、天地創造の神、また球状の玉を転がす習性から古代エジプトでは太陽の神の象徴として神聖視され、これを型どって護符とした。護符は貴石や陶器などで作られ、装飾品や印章としても用いられた。ミイラの心臓の上に置かれたものは、復活を祈願するという意味をもつ。（広辞苑、および百科辞典マイペディアより抜粋）

美術団体一陽会を創立した際、シンボルマークとしてスカラベを冠したことは、大先輩の諸先生たちの慧眼にほかならない。一時はこのスカラベを軽視するかのような向きもあったが、反省と自戒を込めて第59回展で、まさしく復活したのである。

スカラベ賞

絵画部委員　佐川文子

59回一陽展で新設の『スカラベ賞』受賞という栄誉に輝き、予期せぬことの驚きと、喜びに浸って新年を迎えた。

思いおこせば森由太郎先生の薦めで、昭和35年第6回展に初出品。その後7回、8回展は子育てと仕事で不出品。昭和38年9回展から現在まで連続して出品してきた。毎年夏になると、迷い、悩み、徹夜の日々など、必死の作品づくりであった。しかし、一陽展が開催されるとまっ先に上京し、その会場を巡るのが最大の喜びでもあった。

現在の私は持病に悩みながら、多くの生徒達を抱えて、いまだ現役で仕事が出来ることや、絵が描けることなどを喜びつつ、天地万物すべてのものに感謝し、ただ『有難う』の一語に尽きる心境でいる。

88才の私に残された時間は少ない。今の間に満足できる作品を作りたい。又一陽会出品の後輩の育成にも徹したい。と、それだけを願っての日々である。

スカラベ賞

絵画部会員　秀島有子

一陽会にはじめて出品したのは大昔…。上野の旧美術館で、三段掛けの一番上で題名も名前もよく見えない。今思うとよく入選したという作品でしたけれど、そのお蔭で絵を描き続けてこられたと思います。

毎年出品するのは負担と感じることもありましたし、ただ描き続ければ良いというわけではないのですけれど、描いていたから乗り越えられたこともあったかな。

今はCGやアニメ等々、時の流れの速さにびっくりしていますが、自分を見失うことなく、でも頭を柔らかく一陽会のモットーにあるように、新しい分野にも勇気（というとおおげさですが）を出して向かっていきたいものです。

ラッキーアイテムのスカラベの賞は、これからも頑張れよ、という励ましと思い、一陽会の皆様と一緒に今後も活動させていただきます。

スカラベ賞

絵画部会員　阿部知暁

一陽会創立以来のシンボル、スカラベ賞をいただき、まことに感謝しております。

ゴリラを描きつづけ、これからもゴリラを描きつづけていきます。2014年は、東京にて個展の予定です。このスカラベ賞を励みに、制作していきます。

2013年7月18日～24日、あべのハルカス近鉄本店タワー館11階アートギャラリー個展会場。アフリカより知人の研究者が来館されました。

スカラベ賞

彫刻部会員　故・内田　英 先生

すぐれた造形思考と温厚な人柄で、彫刻部の重鎮として後輩に慕われた、内田英先生が2014年1月5日、90歳の天寿を全うされました。先生は東京美術学校（現、芸大）を卒業。商業デザイン・ディスプレー・舞台美術などで活躍される一方、一陽会の彫刻家として、いぶし銀のような存在感のある作品を出品されました。

スカラベ賞受賞の報は、病の床でお喜びだったとのこと、ここに謹んで哀悼のまことを表し、ご冥福をお祈りいたします。

一陽賞 会友賞

絵画部会員　古田恵子

「一陽賞」と「会友賞」を同時にいただいたという一報は、昼は稲刈り、夕方から夜にかけて籾摺り(もみすり)という農作業のさなかでした。

恐れ多くもほんとうにいいの！?。

というのが素直な気持ちでした。

この重みに耐えられるのだろうか。

農業をして土や植物、昆虫など、生きているものと触れているから題材を得られているということも言えますし、家族の理解と協力に支えられてのことです。

光に照らされるおかげで月を見ることができるのであって、その関係に生かされているということに改めて気づかされます。

公募展の醍醐味は、孤独な制作による個性の集う展示が、相互作用により相乗効果で互いを生かしあう場になっているのだと、ようやく気がつき始めた次第です。

とりわけ、今の私が及ぶことのできない伸びやかな包容力、深く慈しみの表現の作品に出合えることが歓びです。

私たちが現実と思っているのは人間が生み出した幻にすぎず、考えたり思ったりの奥の奥には、普く共通し認知されている自然の法則があるといわれています。

よく「現実は厳しい」とか「現実は苦しく辛い」といいますが、その現実は実は夢想で、ほんとうの現実や現在のありのままは「美しい」のかもしれません。

それは瞬間に立ち現れますが、すぐにノイズにかき消されたりもして、なんともつかみ難い儚くも幽かなものです。

自分の小さな経験や狭い知識や浅い想像力を遥かに、遥かに超えた世界がきっとあると、なんの解釈も意味づけもせずひたすら手を動かしているうちに、奥の方の柔らかく手つかずの世界を発見できるのではないか、などと考えながら制作したりしています。

生き生きと流動している刹那の連続。

まっさらな赤子が花咲くように微笑むような、ねじれたつぼみがほどけて開くような。

この世は想像を超えた現実に満ち満ちていて、未知のものや事に包まれていることでしょう。

混沌とした無秩序な螺旋が、自分の手によって秩序が生まれてくるのは喜びであり、嬉しいことです。

ありがとうございました。

青麦賞

絵画部　熊谷和子

魅せられて

思いもよらない大きな賞を頂き本当におどろいております。有難うございました。まだまだ未熟で何もわからず、ただ夢中で描きましたが、このような賞を頂きまして心から感謝申し上げ、これをはげみに、また頑張って参りたく思っております。

何かを射すくめるような鋭い眼光、獲物をねらったら確実にとらえそうな嘴、このタカを見た瞬間頭の中を、否、全身を例えようのない衝撃が走り、このタカを描くことに決めました。

絵が精魂をこめて仕上がった時の、えも言われぬ達成感と、満足感は文言では表現できないものがあると感じました。絵に魅せられた老婦はいつまで描き続けることができるのだろうかと自分でも楽しみであります。これからも頑張って描いていきたく思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

青麦賞

絵画部　藤本美紗子

『しのびよる』青麦賞

ある秋の日、家の台所にあるジャガイモが芽を出しているのに気がついた。不透明で艶のある紫や鮮やかな黄緑色をした芽が、細かい毛に覆われている。太く育った芽の根元から、透明感のある黄色をした新しい芽が丸く頭を出している。人の手によって食べ物として育てられ、収穫され、そのまま放られても、自身に蓄えられた養分を使って芽を出すジャガイモの姿が、昼下がりの白い光に照らされていた。

私は、この力強い色の美しさと繊細な形の組み合わせに惹かれた。そして植物の強靭さに感動し、それを表現するべく絵筆をとった次第である。

今後は、見る人がはっと冷や汗をかくような感動を与えることのできる、説得力のある絵が描けるよう精進してゆきたい。

青麦賞

彫刻部　劉　治国

「一陽会」に出品して二回目となりました。初めの年には、大学の先生方や友人たちの紹介で何も知らないままに作品を出しました。その時は"自分は彫刻が好きなんだ"という安心感があったかもしれません。しかし、他の出品者の表現形式や素材を自由に扱う表現に目を引かれ、レベルの高い作品に囲まれて、自分の未熟さを凄く感じました。

そこで作品の展示作業や研修会に積極的に参加し、自分の作品について先生方より貴重なご意見をいただくことによって第59回展の「青麦賞」を受賞することができました。自分にとって急成長の一年間と言えます。そういう意味で「一陽会」に出品したことは、自分自身を鍛える一歩であり、制作の展開を見つける場でもあったと思いました。

会友賞

絵画部

宇梶陽子

今から遡る事5～6千万年前、ティラノサウルス達恐竜が地上を闊歩していた頃、ある日小惑星が地球に衝突。高さ300mもの津波が押し寄せ、熱風は森林火災を起こし、舞い上がったチリは空を覆い地球全体が急激に寒冷化し、恐竜達は全滅したそうだ。私はこのミステリアスで巨大な動物達に興味を持った。そして現代のこの発展ぶりはすごい。大昔の恐竜と都市をテーマに描くのはどうだろう。夜の工場風景をと思った時、私の出身地神奈川県が浮かんだ。教科書で学んだ京浜工業地帯。川崎の浮島や扇島は終日白煙や重低音をあげていて、巨大な塊はまるで恐竜を思わせる。この恐竜の様な工場は人類のあくなき追求の産物だが、それは又大きな力が及んで一瞬にして消え去るかもしれない。そんな不安な思いを感じながら、恐竜の骨と工場を未熟な筆で描いてみました。

会友賞

絵画部

孫　鵬

2009年奨励賞の「戦い」から2013年会友賞の「進化論－旅立」まで、2014年で6年目になります。学生時代の恩師泉谷先生から、はじめて一陽会を紹介していただいた時、多彩で自由なスタイルと斬新な視覚に感動して、出品したいと思いました。

作品のテーマは現代社会について感じたこと。会友賞をいただいた「進化論－旅立」は、環境問題とダーウィンの進化論を組み合わせて描きました。人間は社会の中心として、創作していると同時に破壊しています。人間は生存のため今までの破壊をやりなおすか、劣悪な環境で生きるため自身が"進化"するか、みんなに問題を出しました。

これからの制作はおもしろいだけではなく、絵画の基点から深く探求し、表現したいと思っています。

会友賞

絵画部

楠　忠臣

考えてもいなかった会友賞の受賞をお知らせ頂き、大変感激しました。

老木（樹齢推定2000年）の山高神代桜に見せられて10年以上描き続けてきました。

近年は樹皮の風化と木肌の色彩の風化がはげしく、作者に難題を投げかけており苦心しています。これ程に変化する姿、形を表現することは毎年悪戦苦闘していますが、この形を描くことにより作者の前進につながると思い精進しているところです。

これからも追い続け、どこ迄きわめられるか頑張ってまいります。自分なりにみきわめができたら、他のモチーフに挑戦していきたいと神に祈りながら……

この賞を励みに、もう一歩前に進んでいきたいと思います。

ありがとうございました。

会友賞

彫刻部

酒井恒太

昨年、私はアドルフ・フォン・ヒルデブラント（Adolf von Hildbrand、独、1847～1921年）という、ロダンと同時代に生きたドイツの彫刻家について研究をおこなった。ヒルデブラントの造形原理との最初の出会いは、日本語として初めて全文が翻訳され、岩波書店から1927年に刊行された「造形美術に於ける形式の問題」である。本書中には旧字体が使われ独特の難解な表現も多く見られるが、その緻密な論理の構築によって創造された芸術思想が、現代の彫刻観にも多大に寄与していることを実感し深い感銘を覚えた。本研究は平成25年度筑波大学大学院博士号学位取得論文として提出している。

人の最も創造的行為は概念の構築であろう。そして自然は投影体として、ただその姿を提供するのみである。緻密に練り上げられた産物は思想の実態であり、静かに必然性を受難し続ける。

かに

私流、制作のあれこれ

絵画部 会員　野中 未知子

近年、午前中は2時間ほど、ボーっとして過ごすことが多い。近くの畑にキジの親子が棲んでいて、ほほえましい情愛を見せてくれるのを楽しみにしている。一陽会に出品してずっと私は実体験からの心揺さぶられた感動を、表現したいものだと思い描き続けている。

能登の海音、白いやさしくも強い波の動き、地平線からの朝夕の太陽光、雲と相成って変幻自在の情景は何とも言えない。今自分が母なる海の胎児となって、鼓動を聴いているような錯覚と安心感が溢れてくるのです。

ある時は、夜の海面に顔を近づけて見ると青黒い深い海底に、白く赤く消え輝く光を見つけることがある。人は本能的に光に対して何か…を持つ。誘惑かもしれない。恐怖かもしれない。安らぎかもしれない。この複雑な感情を、（形にないもの）を表現してみたい。

自然界の事象の中に、自分の真実と似かよったものを見つけると、早く掌中に息づかせたい、とテンションが上がる。

構想を錬る時は、入浴中であったり、台所で食器を洗う時で、浮かんだアイディアは早くメモしないと消えていってしまうと大変と、近くのメモ帳に手をのばす…。家事、アイディアスケッチと混在した日々を送っていて、家族泣かせの我ママ人生です。素材は詩の題名にも相当すると思っている。油絵具、アクリル、和紙とありきたりのものを求め制約された素材の中に表現の可能性を信じたからである。乾燥しない油絵具の部分に水を数滴たらす→数分後に吸い取るとどうなるか？時間差で実験した。同様にアクリルの上にも油絵具の接着効果、ふき取り加減の違いによる効果をカードにして、資料作りに熱中していると、横で見ていた私のパートナーは、素材作りは化学であると…ツブヤク。が私はしかし「偶然の出会いや発見もあるぞ」と…。どうしてこのにじみが出たのか？似た作品は二つと創れない。真白なキャンバスに一回めの流し込みは緊張の連続と魅力の交錯!!

用具は市販の筆、手作り筆（枝、紙、ハケetc.）

下地はアクリルキャンバスに和紙少々を貼る。800番の水ペーパーで軽くみがく。

はじく、たらす、こする、ぼかすの技法を適宜使って、絵具の透明さと、不透明さを調和させて描いていく。途中で作品が変化していくことがあっても、私のイメージの幾分かを表し終えたことと、至福のひとときが訪れることになる。私の最近作に花をモチーフにしているのは、能登の砂丘地附近に咲く「ハマナスの花」がだんだんと消えていく…ことが悲しいこと。この地が生存しやすい環境にあるのに…酷なことです。

信州と私「伊那アルプス美術館のこと」

絵画部 会員　垣内 カツアキ

日本の屋根信州は、3000m級の幾つもの峰々を持つ三つのアルプスの存在する自然豊かな県である。この内の南アルプスと中央アルプスの二つの山脈に囲まれた県南部の西高台に建つ可愛らしい私設「伊那アルプス美術館」について記してみたい。自宅辰野から南西に10km程の箕輪町に1997年4月、資力も持たない私が意を決して建立した。

若い頃にはとても考えてもみなかったことである。公立や大規模な館とは比較出来ない小さなものであることは当然であるし、設備も所蔵展示作品も、それ程のものではないことは否めない。私の絵画人生は、製菓職人の父が若くして他界した高校二年から始まった。一陽展への初出品は第5回展で、もう遠い昔だが、生れ育った自然美の宝庫とも思える長野県の風景美に魅了され、県内各地県外へもスケッチブックを携えよく出掛けた。南隣りの箕輪町へは近くだけに屢々訪れた。その折によく通る小高い西方からの一帯は、仙丈や西駒、甲斐駒、八ヶ岳、蓼科、霧ヶ峰等の山々が手にとるように展望出来、心を弾ませた。この辺の所にアトリエを構えることが出来たら、どんなに有難いことかと思った。運よく30年程前、この眺望の良い素晴らしい一角を譲っていただける話が舞い込み嬉しかった。盛んに油彩画に夢中の時でもあり、比較的大きな家屋に住んでいた私も、長い間の制作の中で、作品の置き場所も手狭になってきた時でもあったので、意を決してこの場所にアトリエ、保管、展示、そしてこの地に少しでも美術文化の風を送ろうとの思いを以って、二階建ての美術館の名を持った建物を設立したのである。

今は私にとって、ここは静かで空気も澄み、気持の和む別天地である。周辺の里山も四季折々に詩情の漂う様々な姿を見せ、自然の恩恵に感謝しつつ永遠に変ることのない感動を与えていただけることに幸せを思う日々を送っている。所蔵作品は拙作ばかりではない。自らの研鑽のため購入してきた国内外、過去現在の作家で、主として絵画、版画で、具象系平面作品である。館内外も改造を重ね、現在常時300点の展示可能なスペースとなった。来館者との談話も楽しみの一つとなっている。

2014年1月記

会員推挙

絵画部

伊藤　裕一

22年前の一陽展初入選以来「人と自然」をテーマに描き続けてきましたが、いつの間にかひとつの画風、スタイルに囚われ、知らず知らずのうちに自身の絵の模倣を続けている自分がいました。表現者として常に自由であるべしと、常々思っていたにもかかわらずです。一陽展で評価されたいとの思いが、そうさせていたのでしょう。自分は何のために描いているのだろう。本末転倒だ。そんな自分に嫌気がさし、そのジレンマからの開放に悪戦苦闘しているこの時期に会員推挙ということで複雑な思いではありますが、嬉しく思っています。

何やらキナ臭い風が吹き始めている昨今ですが、時代とともに転がり変化し続ける表現者でありたいと思っています。

会員推挙

絵画部

井上　峰子

一陽展に作品を出品するようになって13年。

絵を一緒に描く仲間との楽しい時間を持てるのが嬉しくてスタートし、月一度の教室の日が待ち遠しかったです。少人数の仲間のそれぞれが、別々の会に出品するための作品のエスキースを持ち寄り、先生を中心に仲間たちもいろいろ評価し合うのです。そのアドバイスを元に家で再び煮つめ、作品づくりを進めていくのです。展覧会が近づくと先生と仲間が一緒に移動して、作品の仕上がり具合を見てもらいました。それは、私が今の状態に至るまでの、大事な工程でした。一人では決して思いつかなかったこと、独り善がりだった構図の取り方等も、いろいろ勉強させてもらえました。師匠も亡くなり、自分でこれから何でもやらなくてはと思った時、一緒にやってきた仲間達が次の師匠としてアドバイスしてくれるようになり、今の私の作品づくりに生かされています。描きたいという気持ちと、支えてくれる仲間を大事に、作品づくりに励みたいと思います。

会員推挙

絵画部

榎本　紀代文

15分もすれば太陽が沈むだろう。河口に生えている葦が、一面に光を浴びている。淀川には、いくつもの鉄橋が架かっており電車が行き来しているのが遠くに見える。大小の雲が浮かび、微妙な光が刻々と変化し橋脚や電車はもうシルエットになっている…。こんな光景を美しいと思わない人はいないであろう。以前は、自然の美しい光景を感じとりながら簡単な下描きで1～2枚の彩色をしていたが、今はスケッチブックは持っているだけで、先にデジカメのシャッターを押している。少し考えさせられるが、これでよいのかとも思う。近年は、手軽なスケッチ道具とデジカメ持参だ。51回展での透明水彩が初出品だが、これからも制作スタイルは変わらないかもしれない。気取っても飾ってもどうにもならない。素直な気持で、絵が描けるようになればと思っている。

会員推挙

絵画部

大黒　郁代

子供の頃に絵が上手だったとの思い込みから、大学を卒業して暫くして仕事の合間に絵画教室に通う様になりました。県の展覧会にも出品を始め、絵を描く楽しみも倍増しました。そのうち会員の皆様から誘って頂き一陽会展に出品することになり、以後楽しみや苦しみを重ねながら今日に至っています。

昨今はマンネリ状態の自分の作品に閉塞感を抱きつつ試行錯誤を繰り返しては満足感が得られず、長いトンネルの中で次第に絵を描く喜びを失いつつありました。

そんな折昨年のグループ展で先輩から助言を頂き少し光が射した思いがありましたが、その作品が会員推挙という結果に繋がり心より感謝しております。とは言え、これからも制作は続くのですから、射した光がくもらぬ様に努力していきたいと思います。

本当に有り難うございました。

会員推挙

絵画部

小川　京子

絵を描くときは頭の中で物語を作りながらキャンバスに向かいます。会員に推挙していただいた絵は「長い旅の始まり」と題しました。本来は希望に満ちた出発であるはずなのに、放射能に汚染され荒廃した世界から生きるために脱出せねばならない若者の現実を描きました。はじめは少女の旅立ちでしたが、共に困難に立ち向かえるよう少年を加えました。暗い海を渡る船はあるのか、月や星が目的地を示してくれるのかなど、思いながら描きました。

これからは物語と共にある私の絵が自己満足で終わるのではなく、絵を見てくださる方々にも理解していただけるような構図と舞台設定、そして描写力をつけたいです。宜しくご指導ください。

会員推挙

絵画部

川口　文子

ガラスの向こう側の蘭と対話して二十三年。コクリコ会に入会して、ガラス絵の透明感に魅せられて続けてまいりました。一陽展に初出品させて頂きましたが、毎年本展に先立ち千葉県立美術館で行われる千葉支部展の研究会では、白熱した議論が展開されます。又、同美術館でのコクリコ会展にも多くの先生方が来観され、ご批評頂くことが出来ました。この度、会員に推挙して頂きましたことは、諸先生方の長年のご指導の賜物と、改めて感謝申し上げます。これからも花々を通して、私の「思い」を表現してまいりたいと思います。

会員推挙

絵画部

楠森　道剛

一陽会にはじめて出品したのが10年前でした。それからずっと一陽会の先生方には、絵のご指導だけでなく、僕の生活の心配までして頂き、本当にありがたく思っています。懇親会などでお会いする度に「ちゃんと飯食えているか?」「仕事は順調か?」「来年も頑張りや」など、些細な一言でも僕のことを気にかけて下さっていることがとても嬉しく、すごく励みになりました。

沢山学ばせて頂き、励まして頂き、支えて頂き、僕が調子に乗った時は鼻をへし折って頂いたお蔭で、僕は頑張ってこれたように感じます。まだまだ未熟ではありますが、これまで以上に努力し、一陽会を支える柱の一つになれるよう日々精進していきます。

会員推挙

絵画部

篠崎　聡

私が作品制作を続けているのは、制作する喜びを忘れないため。作品を通して刺激を受けるためと考えています。とりわけ描きたいものが決まっているわけではないので、100号のキャンバスを張り下地を作っている時に、白い画面がとてつもなく大きく見えて「何を描こうか」から始まります。色々なものが描けそうに思いますが、そんなに生活経験が豊富なわけではありません。題材としては、「出会いと別れ」「懐かしい思い」などを描いてきました。最近は「暮らしのスペース」を題材に描いています。広く感じた6畳の制作スペースも時間と共に物が増え、整頓していたつもりが何をしまって置いたか忘れてしまっていて、確かめる余裕のない生活です。そんな中で、何か大切にしたいものを探しているような世界観を描けたらいいなと考えています。

会員推挙

絵画部

島田　広之

早く羽ばたかないと落ちてしまう、今は巣立ちを迫られたヒナの気分でおります。人間の社会では常識人という立場が、一番過ごし易いスタンスとして定着しておりますが、その社会常識というものも時代に応じて変貌し、今は大分外れたものも普通になっております。むしろ自由なはずの芸術の世界の方が、いっそ保守的なように見える気がしてきます。人間の基本は古代からあまり変わりませんが、目に見える世界からのインスピレーションは、多種多様の選択を日々迫られます。今や常識漬けとなった私が、どこまでその殻を破れるかは未知数ではありますが、無限大に広がった空間を前にして、そこに輝く星となれるか否かを決する覚悟でおります。

会員推挙

絵画部

鈴木　利行

感想を書くと云う事は、ひとつには過去に思いをめぐらせると云う事になるのか。

実際「会員だヨ」と云われて色々な昔日の事が脳裏をめぐったのであるが、私の場合のそれは実体の無い空虚なものに思えてならない。ただとてつも無く長い時間の闇がつづいて来ているのだと思う。

絵を描いて来たのも事実、生きて来たのも事実なのだが、何か実体とでもよべるような、云わば充実感とか達成感とかがまるで無いのである。

これからもこうした時間が相変らず流れて行くのかも知れない。ただ「絵を描く者」に再び立ちもどろうと思う。

会員推挙

絵画部

高橋　章子

只々、一生の内に一度は油絵を描いてみたいという思いだけで通ったカルチャースクール。その頃は一陽展に出品する事など考えてもいませんでした。今こうして、5年目にして会員推挙という、とんでも無い事が自分の身に起きているのが信じられません。一昨年に会友賞を頂いた時は、自分の絵が認められたという嬉しさで一杯でした。昨年の「陽の鵜ノ崎2013」は、更なる向上心が湧き出て130号に筆を走らせました。その絵で、あろう事か会員推挙を頂き身の引き締まる思いです。絵を描くようになってからは、あちこちで開催されている美術展に足を運ぶようになり、その度に様々な技法に感動を受け、明日への活力になります。性格がせっかちという所もあって来年はこれ、再来年はこんなのと、気が早ってしようがありません。暫くは、秋田県の男鹿半島の「日本の渚百選・鵜ノ崎海岸」から離れられそうもありません。出会いに感謝です。

第59回展　新会員紹介

会員推挙

絵画部

豊岡　知世枝

私は、岡山県と鳥取県の県境に位置する、中国山脈の麓で生れ育った。四季折々の自然の中、春は家の周りの草花が萌黄色に変り、桜が咲き誇る頃になると鶯の声と共に朝を迎える。花も終り蝉しぐれの中、すみきった川で時を忘れ泳ぎ魚を追っかけて遊んだものだ。

そして秋を迎えると、柿、桃、栗、柘榴、なつめ、葡萄、たわわな色とりどりの実りをいただき、雨上がりには芒の道を通り抜け、木々の根元の可愛い茸狩りに夢中になった。そして木々と茸の関わりの不思議さに感動した。

誇らしげな実りも、精一杯燃えつきた木々も、静かに冬を迎える。雨戸をくる音でびっくりした目白が一斉に飛び立ち、早咲きの梅の花に積った雪がバサッと落ちる、その清清しさ。こんな大自然の贈りものをいただきながら、勉強不足と表現力のなさで悩み続けると思う。

でも幼い時の大切な思い出を追い続け、自然と対話、共生していきたい。そして今日迄暖かくご指導下さった諸先生方と、発表の場を与えていただける一陽会に、心より感謝申し上げます。

会員推挙

絵画部

林　政人

時折足を止めて「生きる」とは何なのかと、考えてみたくなる光景に出会う事がある。

初冬のツツジの植え込みに一匹のカマキリが尻の先に、薄茶色の綿状のものを付けているのを発見し、ずいぶん遅い時期の産卵だと思った。翌日も昨日とまったく同じ姿であった。恐る恐る手を触れてみる。産卵の終わらないうちに命が尽きてしまったのだ。見てはいけないものを見てしまったようで、しばらく立ち去ることができなかった。

昨年菩提寺の山に出る鹿の食害対策で、金網張りに行った折、これが獣道だと教わった。確かに幾つかの道がある。多くの動物たちの出会い、触れ合い、威嚇、別離、等々。実人生と重なってみえる。

さて、今後は、「生きる」とは何。描く事は自分探しの旅だと思って描いていきたい。

会員推挙

絵画部

藤井　悟

一陽会会員に推挙して頂き、光栄に思っております。

一陽会会員の名に恥じない自分の作品を描いていきます。

里山の風景を毎日の散歩で観察、というよりは日々のちょっとした変化を楽しみ。

今日は青サギやカモやカワセミやスズメなど見たとか、水仙のつぼみがふくらんだ、ロウ梅が香ってきたなど、小さな喜びをコツコツと描き続けてゆきます。

一陽を続けていてよかったです。

どうぞよろしくお願いいたします。

会員推挙

絵画部

益田　恭行

一陽会初入選が、2003年49回展のときでした。このとき幸運にも奨励賞を頂き、連絡を受けたときの体の震えが、いまだに記憶に残っています。

私にとって一陽会という土壌に入ったときの新鮮な衝撃と感動は、今も制作活動におけるモチベーションとなっています。

ここ2年ぐらいになりますが、生命（動）と死（静）をテーマに表現を転換しました。

起点となったのは、41歳の時に長女が生まれ、生命の力強さ、神秘さに感涙し、反面、東日本大震災が起き、TV画面を通してですが、自然の残酷さに悲壮感を抱いたことです。

さまざまな解釈や表現方法で生命をテーマにした作品はたくさん存在します。私は私なりに自己の表現を追求し、表現したものは人の心に潜入し、突き動かすものであれという信念で制作していきたいです。

会員推挙いただきましたことを心から感謝いたします。

会員推挙

絵画部

桝田　律子

誰もが持っている独自の世界。

他人と異なる世界を求めたいと思う一方で、誰かと共有の世界に身を置き、夢や悩みを語り合いたいとも思います。私にとって、その両方を満たしてくれるのが一陽会の存在です。

作品を通して刺激を受け、人と触れ合い人柄に接して心を豊かにし、絵の制作という孤独な仕事を続けてこられたのも、一陽会の方々との関わりがあったからだと思っ

ております。

会員に推挙していただき、会員という責任の重さを感じながら……これからも、そんな触れ合いの中で自己の世界を広め、更なる表現の展開をしていきたいと思います。

会員推挙

絵画部

松川　勝男

私と一陽会との出会いは、一陽会長野支部展（15回展）に初出品し、受賞式でやまぐちかずお先生にお会いしたことでした。長野では最後の公募展なので来年は本展にとのお誘いがあり、一陽会に出品することになりました。当時、地元でも有名な、私にとっては雲の上の存在であった絹笠省三先生（故）が支部長で、その絹笠先生と碓田順彦先生の情熱的な御指導が、私にとって絵を描く姿勢と意欲を掻き立たせてくれました。一陽会本展の先生方も、支部研究会の時には暖かく接して頂き、大変嬉しく思いました。小川哲郎先生（故）も長野に写生に来られた際、「風が唄を歌っているでしょう…君も心の唄を描きなさい」と言われ、とても勉強になり、諸先生方の言われた言葉が今でも脳裏に残っています。諸先生方の温かい御指導の結果、目標であった会員推挙につながったと感謝申し上げます。今一度、自分自身を内面から磨いて、壁や隔てのない、魅力ある一陽会に出品できるように精進し、頑張っていきたいと思います。

会員推挙

絵画部

宮坂　和子

ちょっと遅い子育てが一段落し、フッと想い出した青春の頃、部活で出会った油絵の具の匂い。まだどこかにあったはず、そう、いつか又描こうと心の奥に仕舞ってあった私のたのしみごと…。思い切って絵画教室へ、まさかの一陽会出品への入門となりました。何も知らずただ嬉しかった初入選の線路のモチーフから廃墟となった構築物へ、現役の工場地帯風景へと対象となる興味は移りましたが、軟弱な自分を補ってくれそうなハードなものばかり。今は併せて大自然の悠久な営みも画面に表せたらと苦戦しています。

（尖鋭なる未完成こそ…）に励まされ、あの頃のまだ使える絵の具と共に青春の続きを歩んでいる幸せ。時間はタップリありそう。願わくばこれからはもっと楽しみながら、納得できるものを描けたらと思うこの頃です。

会員推挙

絵画部

山口　功

一陽会に出展して23年、長い会友時代には何度挫けそうになった事か、輸入家具の販売をしながら絵を描くのは夜9時からの制作、ヨーロッパの家具を描き人物を入れてみたり、人物を鏡に映してみたり。そして10年程前に経営を息子に譲り、時間が出来たらいつでも描ける絵に迷いが出てしまいました。アトリエの周りに薔薇を植え始め、育てた薔薇をモチーフに描き始めて8年、やっと薔薇の生命（いのち）にたどり着く事が出来ました。これからは薔薇を追求し、自分なりの薔薇（生命）をキャンバスに描いてみたいと思っております。有難うございました。

会員推挙

絵画部

西脇　義照

「作品は時間の結晶！」

私が、常に大切にしていることである。与えられた時間の中で何ができるかを追い求め、新しいものを創造する。そこに、「生」が存在する。

表現する喜び、表現できる幸せ……。何をどのように平面という世界に表現するかが、自分との戦いであり、ライフワークである。その表現の戦いに、様々な作品との出会いを求め、納得したり吸収したり、さらに跳ね返されたりしながら、今日までやってきている。

与えられた時間の中で、自分らしさを表現する。エアブラシ表現で自分が少しでも出せるように心がけている。

今後も、表現の楽しさ、苦しさ……等、何度も繰り返されると思うが、『一陽会』の中で自分を磨き、少しでも「結晶」がより、輝きを強く増していけるようにしていきたい。さらに、委員、会員の先生方の指導を仰ぎながら自己研鑽に励んでいきたい。

会員推挙

版画部

石塚　ホヅエ

春まだ浅いその時期に、夕食終わった頃よりどこからともなく太鼓の音が聞こえてきます。春祭りの鬼太鼓の稽古が始まるのです。まだ寒さの厳しいこの頃に、却って製作開始するには最適なシーズンです。心を離し立ててです。とは言え下絵作りの段階は何とも不安でどんより曇った重い空と同じです。

凄く不健康かも知れません。そんな気分が折れそうな時はちょいと体育館に行ったりします。そのトンネルを抜ければもう喜々として進むのみです。版木をザクザク彫るのは単調ですが無心になれ心地よい作業で、私は大好きです。時はすっかり春爛漫。それを愛でる事もなく仕上げに。バレンに力を込めます。不安と喜びが入り混じります。迫力があって魅力的な作品に!!重ね刷りの具合は上手く出来たかどうか!!完結するまで慎重に進めます。これが私の6年間の新潟一陽展への関わり方です。会員になって一年目の今年。今年こそは段取りよく進めて行きたいと思っています。

会員推挙

版画部

高橋　洋子

会員になっての想い

第59回展で版画部会員に推挙して頂き、誠にありがとうございます。今後は会員としての作家活動の自覚をもち、作品制作に取り組んでまいりたいと思います。私はビロードのような深みのある黒と白の空間表現に魅せられ、銅版画の世界に入りました。しかし奥は深く、人の心の多面性をどんな空間に誘い出し隠喩表現できるか、試行錯誤を繰り返す日々です。これからも一陽展はもとより、個展やグループ展等を中心に作品発表してゆき、自己研鑽していきたいと思います。一陽会の皆様方と御一緒にこの道を歩み続けてまいります。

会員推挙

彫刻部

飯澤　公夫

月光については様々な思い入れがあり、私のテーマにこれからもつながっていくだろうと感じています。松浦寿輝著『不可能』の中に、「太陽は生命の息吹を連想させるが、月は冷たい死の匂いがする。」という内容の一文があり為す。それは、太陽には、昼を暖かく照らし、動植物など生命の誕生を想起し、未来に向かって生き生きと育まれていくイメージがある反面、月は、生命を脅かす夜の闇の中に冷え冷えと鈍く光り、すべてが息をひそめ朝を待つイメージがあるからでしょうか。私はアルミニュームを熱して打つことを繰り返しながら、この金属の持つ冷たく鈍い光に月のイメージを重なり合わせながら、これからも私なりの表現を追いかけていき、今回の会員推挙を更なる表現の広がりの機会にしていきたいと思います。

会員推挙

彫刻部

三井　正人

若かりし頃、都美術館でのある公募展に出品してから30年が経つ。昨年一陽会の会員にしていただいた。大変感慨深かった。やっとの思いでと振り返ってみると、その間ずいぶん周囲の様子が変化していた。時代が変わり、家族は世代が変わっていた。相変わらずの彫刻のことばかり考えている私は今、まるで浦島太郎のような気分である。

私の仕事場は八ヶ岳中腹にある。仕事が間に合わなくて、深夜の作業のとき空を見上げる。満天の星が大変美しい。闇の静寂にノミ音を響かせながら、過ぎ去った人々への伝え忘れたこと、またこれから出会う人へ伝えたいことについて思いを馳せる。夜空の星を見上げ、これからは私の原点をもっと素直に形にしていきたい。そんな想いに駆られる。会員という自覚を持って。

滝　悌三　賞

彫刻部

土井　敬真

「新たな気持ちで」

2001年に一陽会に初めて出品した作品は、2体の自刻像による組作品でした。それ以降、2008年を除いて毎年自刻像の作品を出品し続けてきましたが、珍しく今回は自刻像ではない作品を出品いたしました。しかしながら、観る人からすれば作品のモデルは私に見えなくもありません。個人の肖像としての作品を造り続けてきた中で、今回は私という個人から出発してはいますが、私自身の肖像ではなく一人の男性像として制作しました。特に大きな理由はないのですが、こうやっていつもと少し違う制作に取り組むことで、私自身の彫刻に対する考え方というものを振り返り、再確認することができたような気がします。

一陽展もいよいよ60回の記念展を迎えます。今年も新たな気持ち彫刻制作に取り組みたいと思っております。

損保ジャパン美術財団賞

絵画部

岡村　順一

上野の森を足早に抜け、受賞通知を胸に逸る気持を抑えながら美術館に着く。一室に入った瞬間、目

前に自分の作品を見つけた。驚きと大きな喜びが身体中に一気に溢れてきた。だが暫くして諸先輩方の作品群に触れ、自作の未熟さに身の縮むような思いをした。これは30年程前の初出品のことである。その当時の一陽会は、若手の出品者も多く、奨励し、育成したようである。以来一陽展出品を切っ掛けに多くの作家を知り、様々な表現に触れることで、画家として生きる姿勢と創作に当たってのコンセプトの重要性を学び取ることになった。会員以後は、自分の絵画世界を確実なものに築き上げたい一念でやってきた。今だ道半ばではありますが、この度の受賞はやはり有難く、これからの創作に大変励みになりました。これも会の先人達に育まれた結果であり、感謝申し上げます。

野外彫刻賞

彫刻部

田口　哲也

私が一陽会に出品し始めた頃、都美術館の野外会場は、具象あり、抽象あり、素材も様々で所狭しと作品が並び、他の公募展に負けない華やかさがあった。その会場には、大イチョウを囲むようにレンガが敷き詰められ、時の重みを感じさせる雰囲気は私の憧れであった。

現在、新国立美術館の野外会場は、コンクリートの床と塀で囲まれており、冷たく無機的である。私の作品は、とうていこの空間には合わないと思っていた。しかし、美術館特有の薄い緑がかったガラスを背景にして自分の作品を見たとき、黒御影石のシンプルなフォルムと意外にもよく合い、洗練された印象さえ感じ、感動した。

私にとって、こうした発見と同時に野外彫刻賞を受賞することができ、感謝と共に次への制作意欲となっていることがとてもうれしく感じている。

★誌面の都合上、以下の方々は顔写真の紹介とさせていただきました。

会員賞

絵画部

竹田　明男

永田　啓子

橋本　紀夫

彫刻部

古野　恵美子

安田　淳

前嶋　英輝

支部 & グループ活動報告

東　京　支　部
TOKYO

2013年度の活動　2013年2月～2014年1月

■17回東京支部展　4月18日～23日

●東京支部展(上野)２階第４展示室

本年も支部展は都美術館開催。展示会場は壁面・床スペースも同じ会場。今回も一般・会友は絵画・彫刻ともに本展規約サイズ。出品者に2点余の出品も多数あり、又企画した小品コーナーの作品もバランスよく展示され快適に鑑賞できる会場となった。彫刻は変らぬ熱意で特別出品者と作品の支援を頂き、17回展も2666名の来場者があり盛況で充実した支部展開催となりました。

○出品状況

絵画42名、版画４名、彫刻14名

○受賞者

東京支部一陽賞　宇田幸正（絵）

東京支部特待賞　木村さかえ(絵)、渡辺通子(絵)

〃　奨励賞　緒方美智子、山口桂子　仙田　清(絵)、岡田忠明、酒井太　三好美奈子(彫)

マルオカ賞　高見宏治(絵)

東美賞　福井博子(絵)

■研究会　4月18日

午後展示会場にて一般・会友の出席者を主に制作の内容を基調とした講評会を行う。指導・助言は委員、会員の先生方が担当。トークの交流により出品者との親交を深め指導は個々に時間は長くなるが研究会の内容は深まった。終了後懇親会会場にて受賞者の表彰式と17回展開催を祝い合った。

2014年　支部活動

■東京支部展　4月18日～4月23日

東京都美術館（上野）（休館日21日(月)）

搬入日　4月13日(日)am9：00～pm15：00

地下３階第３作業室Ｂ

作品陳列　17日(木)am9：30～pm14：00

展覧会初日18日(金)

授賞式・懇親会pm18：00～pm20：00

ワークショップ　20日(日)

ギャラリートーク　20日(日)

最終日　23日(水)

最終入場pm14：00　閉会pm15：00

2015年　支部活動

■東京支部展　4月24日～4月30日

東京都美術館（上野）

■2013年11月29日の会員総会にて役員の確認と変更者を下記に決定しました。

支部長　棚瀬修次

事務局　杉山司(絵)、田中正秋(絵)、小林達也(彫)

記録　安田操（彫）

総務　田中知佳子（絵）、武田守弘（彫）

支部展担当　高岡徹（絵）、山田幸彦（絵）、池田美津恵（版）、小林達也（彫）

ワークショッププロジェクト

企画　支部展担当者

会計　吉村雅利、永井泰子

会計監査　沢オイ、安田操

渉外　沢オイ、小松富士子、滝川鯉吉

東京支部員の活動

■個展

●田中正秋　5月8日～7月15日

シルクスクリーン版画展―信州の祭り―

おぼろ月夜の館（斑山文庫）　野沢温泉村

●大川きよ子　5月23日～28日

―なごみ―　ギャラリー恵風（南越谷）

●武田守弘　6月17日～22日

ときめきＭｙ Heart<2013>　ギャラリー現（銀座）

●石井悦夫　7月22日～28日

スパンアートギャラリー（銀座）

●望月彩子銅版画展　8月26日～31日

―after70―　ギャラリーゴトウ（銀座）

●VOL-28　武田守弘展　12月7日～23日

千年画廊cafe(西池袋)

■グループ展・その他

●彩葉展2013（いろはてん）　渡辺通子

1月28日～2月2日　樣画廊（銀座）

●現代抽象作家展-surprise6-　2月8日～20日

ギャラリー絵夢企画（新宿）　抽象作家25名による　棚瀬修次

●第４回ミモザ展　2月27日～3月4日

竹川画廊（銀座）　伊沢良子

●コラージュ展　3月18日～23日

ギャラリー志門（銀座）　小松富士子

●第10回ＤＵＮＯＲＤ展　3月25日～30日

井上画廊（銀座）　藤田裕子

●第17回日仏現代国際美術展　4月2日～6日

招待出品　東京都美術館　棚瀬修次

●抽象作家による「Ｍｙ裸婦展」　4月15日～27日

ギャラリーＧＫ（銀座）　棚瀬修次

●おんなの絵のチカラ展　5月13日～18日

企画・林紀一郎　ギャラリー暁（銀座）　小松富士子、沢オイ

●優亜+武田守弘　EXHIBITION　5月16日～29日

千年画廊cafe(豊島区) 福Lover+WoodLuckな世界

●<私の眼と精神と手三位一体>展　6月3日～8日

企画・林紀一郎　ギャラリー暁(銀座)　棚瀬修次

●"墨の表現"展　6月3日～8日

ギャラリー志門（銀座）　小松富士子

●ギャラリー暁企画　チャリティ展（銀座）

6月10日～22日　（市橋哲夫）、棚瀬修次

●第16回綺羅星・展　7月5日～10日

千駄木画廊（文京区）　石井悦夫、棚瀬修次

●坂牛幹雄×武田守弘展　7月8日～20日

SPC GALLERY（日本橋）　精神産物構想2013

●天空の詩　7月8日～13日

STAGE・1（銀座）　棚瀬修次

●ART WAVE EXHIBITION―世界に発信するベストアーティスト―　7月15日～20日

A'sアーチストスペース(銀座)　（安田淳）、棚瀬修次

●絵夢コネクション2013　7月18日～24日

ギャラリー絵夢（新宿）　棚瀬修次

●JCAA創立30周年記念展　8月26日～31日

The38th　ARTEX TOKYO2013

GalleryK（銀座）　棚瀬修次

●n'eo<視点-12の個>展　10月21日～27日

企画・中野中　ギャラリー暁（銀座）　棚瀬修次

●2013ＣＡＦ・Ｎ展inせんだい　11月8日～13日

せんだいメディアテーク５階（仙台）　小松富士子

●第26回象油彩三人展　11月25日～12月1日

ギャラリーくぼた4F（京橋）　山田幸彦

●林紀一郎とメリークリスマス展　ART WAVE

12月17日～27日 ギャラリー暁（銀座）　棚瀬修次

●華展　12月9日～19日

ギャラリーセイコウドウ（銀座）　伊沢良子、小松富士子、鈴木晶子

●<現代の怪画>展　12月9日～14日

企画・林紀一郎 ギャラリー暁（銀座）　棚瀬修次

●小松富士子・中畔千嘉 二人展　12月16日～28日

ギャラリー福山（銀座）　小松富士子

●日本ガラス絵協会展　1月6日～11日

井上画廊（銀座）　高岡　徹

●PREMIER STAGE展　1月13日～24日

STAGE-1（銀座）　棚瀬修次

●第22回新春現代作家小品展　1月16日～25日

千駄木画廊（文京区）　棚瀬修次

●MONO・MONO展　1月20日～25日

ギャラリー暁（銀座）　棚瀬修次

●一麦会・第41回油彩作品展　1月20日～26日

ギャラリーくぼた4F（京橋）　加藤恵子、山田幸彦

（棚瀬修次　記）

新しい門出に向けてのひとつの提案
―比較すると見えてくるもの―

絵画部 運営委員　泉谷　淑夫

一陽会が今年60周年を迎える。いわゆる還暦である。その歴史の半分以上に関わった身としては、それなりの感慨もある。しかしこれからの一陽会のことを考えると、悠長な気分に浸って、過去を懐かしんでばかりもいられない。それほど公募団体展の未来は楽観を許さない状況である。思えば60年の歴史は他団体に比べれば誇るほどのものでもないし、また長ければ良いというものでもない。大切なのはこれまでを振り返り、反省すべき点は反省して、今後の歩みに向けた前向きなヴィジョンを探ることだろう。60周年の記念展では、一陽会が元気であること、良い兆しが見えてきたことを内外にアピールしたいものである。「前向きな変化が視覚的に示せるか」これがテーマである。そのためには個々の作品の質を上げるのが手っ取り早い。常連の来場者ならば、その変化にいち早く気づくだろうし、内部関係者には大きな刺激となるだろう。それはやがて口コミで外部にも伝わっていくはずである。幸い昨年の59回展は会場に活気も戻り、会員レベルの作品には充実したものが多かった。その結果として賞の数も増加したのである。この状況が続くなら一陽展の会場がより魅力的なものとなっていくのではないだろうか。

そもそも会員の作品は会友や一般出品者にとっての目標や憧れの対象でなければならない。そのためには常に昨年よりもより充実した作品を描こうという気概が必要であるし、自分の作品を向上させていくための勉強も欠かせない。その具体的方法は人様々であると思われるが、私の場合は比較鑑賞という方法で、過去の優れた作品を分析し、構図法を中心に優れた絵の秘訣を学んでいる。比較鑑賞という方法に行き当たったのは、ごく自然の成り行きで、若い頃から続けていた名画のスクラップがきっかけである。クリヤーファイルにテーマ別や作家別に名画を整理していると、見開きページにどのような絵を収めるかを考えるようになり、その結果、何らかの共通点のある絵を並べるようになっていった。そうすると自然と両者を比較するようになり、違いを見つけたり、出来具合を判定したりするようになったのである。特に両者が同一作家の変奏作だったりした場合は、「よく似た絵の間に微妙だが決定的な違いを発見する」こととなり、これは構図の重要性と絵の奥深さを知る上で、大変勉強になった。そこでこの流れを鑑賞教育に生かそうと、研究と実践を重ね、様々な事例と方法を開発してきた。ポイントは、絵に関する知識を問うのではなく、まず絵を良く見ることを出発点とし、造形に興味を持ち、造形について作者の意図や作画の意味を考えるという「造形思考」の貴重な体験の場とするところにある。

図1　マグリット《ピレネーの城》1959年

試みにこの場を借りて比較鑑賞の一例を紹介してみよう。私はシュルレアリスムの絵を研究しているので、マグリットの2点の絵を紹介してみたい。一つは代表作の一つ《ピレネーの城》(図1) である。この絵はマグリットの絵の中でも描写の完成度の高い大作で、イスラエルの美術館が所蔵し日本ではまだ一度だけの公開であるが、教科書にも載るなどしてよく知られている。この絵と比較してみたいのが発想や構図、主要モチーフがよく似ている《現実感覚》(図2) という絵である。こちらは前者ほど有名ではないが宮崎県立美術館の所蔵で、すでに何度か公開されているので、実作を見た方もいるのではないだろうか。比較のポイントはズバリ「どちらの絵がすぐれているか」である。マグリットはしばしば同じ発想や同じモチーフでいくつかのバリエーションを制作するタイプの画家である。マグリットの功績は、シュルレアリストとして「言葉や意味という常識からイメージを開放したこと」にあるので、彼の手にかかると、それこそ無限に新しいイメージの組み合わせや展開が可能となる。マグリット自身も自分の発想の視覚的効果を確かめるために、似た趣向の絵を次々と描いたのかもしれない。その作業はすべてが"実験"なので、当然結果としての作品には出来不出来が生じる。そこで絵の制作者の立場からそれを見極め、改めてマグリットの絵を評価してみようということである。

図2　マグリット《現実感覚》1963年

はじめは両者を比較して共通点と相違点を発見することから始める。できれば絵の要素として大きいものから順に見つけていきたい。それは対象となる絵の中で何が重要であるかを見抜く力が求められるからである。巨大な岩が宙に浮いている構図は一緒である。背景が、雲がたなびく空である点も共通している。大きく違うのはそれぞれの絵に表された時間帯で、《ピレネーの城》の方は陽の高い日中で、《現実感覚》の方は、陽は傾き三日月が出ている。その違いは雲の色調によく現れていて、それがそれぞれの絵の雰囲気を左右している。また画面の下の部分が海であるか大地であるか、岩の上に城が乗っているか何も乗っていないかも大きな違いである。細かい部分では岩の立体感や重量感、雲の形や動きも異なっている。このどちらの絵を好むかは各人の自由である。好みと出来の良し悪しは必ずしも一致しないし、一致させる必要もない。

しかしこの2点では明らかに作品としての印象やインパクトが異なる。皆さんはどちらの絵に軍配を上げるだろうか。私は《ピレネーの城》からは「明快な大胆さ」を、《現実感覚》からは「けだるいメランコリー」を感じ取り、多少迷うところではあるが、《ピレネーの城》の方がよりすぐれていると判断する。その理由を以下に述べる。巨大な岩を宙に浮かせる場合、設定した場所としてはやはり海の方がより不安感が増すので、衝撃度が高い。しかも波が立っているので、静かな動きが画面に生まれ、それが岩の浮遊感を助長する。そして岩の描写も《ピレネーの城》の方が硬そうで重そうである。また岩の上に乗っている化石化した城が、岩の大きさを強調するとともに、想像力を刺激する。つまり化石化した城は、文明という人間の営みがかつてあったことを想像させ、そこにロマンが生まれる。雲の描写も《ピレネーの城》の方が整然としていて、力強い。これらの理由から私は《ピレネーの城》の方に軍配を上げるのであるが、もちろん皆さんからの反論も歓迎したい。

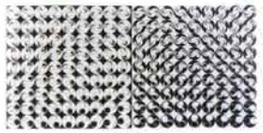
このように比較鑑賞から学ぶことは多い。気に入ったアイディアが出た時に、それの基づく絵をできれば複数点数描くことで、貴重な「造形思考」を経験できる。結果としての作品の出来不出来は問題ではない。作者がその過程で何を学んだかが重要なのである。構図の微妙な違いが印象を大きく変えることなのか、モチーフの組み合わせ方で生まれる変化の違いなのか、明暗の強調や色彩の響きあいが及ぼす効果なのか、それは絵のタイプによって人それぞれであろう。そう考えるとコンクールや公募団体展に出品するための制作は、その良い機会であることが分かる。問題は制作の過程でどのような「造形思考」をしたのかということである。ただ惰性で昨年と似たような絵を描いているだけでは、制作は先細るだけである。今回紹介した比較鑑賞の方法は一例だが、絵の分析と評価にチャレンジしてみたらいかがだろうか。自分の絵はなかなか突き放して見られないが、名画の類なら冷静に対応できるのではないだろうか。その成果を自身の制作に生かすことができれば、突き当たっている"壁"を自身の力で乗り越えることもできるかもしれない。

公募団体ベストセレクション美術 2013

東京都美術館　5月4日～27日

アーティストトークで絵画部作家作品を解説する濱田清運営委員　中村義孝（彫）運営委員も自作を語る。　写真提供：山田久子会員

濱田　清 運営委員



渡部　貢 運営委員

塩川慧子 運営委員

福田利明 委員

中村義孝 運営委員

美しい驚き
泉谷淑夫展
—アートガーデンプレゼンツ—

3月20日～4月1日
岡山市 アートガーデンI
アトリエカフェ

「フェルメールの絵に忍び込んだ猫たち・召使いのいる窓辺」

「家族」

阿部知暁 作品展 5月17日～6月8日

高松市ギャラリー en

「THE DREAM OF FOREST」

—The Dream of Forest—
阿部知暁 絵画展

7月18日～24日
大阪市 あべのハルカス
近鉄本店タワー館
アートギャラリー

大川きよ子展
—なごみ—

5月23日～28日
埼玉県越谷市
ギャラリー恵風

「星降る」

竹田明男個展

6月28日～7月3日
金沢市 グリーンアーツギャラリー
後援 北國新聞社
テレビ金沢
エフエム石川
北陸放送

「おとのふね」

岡村順一個展

4月15日～20日
銀座 光画廊

「巣立ち」

「あさぼらけ」

加藤美千代個展

5月8日～12日
名古屋市 ノリタケの森内
ノリタケの森ギャラリー

鈴木利久展

4月2日～7日
高知市 文化プラザ
かるぽーと7階展示室
後援 高知新聞社
RKC 高知放送

「天空に吠える」

第31回石井悦夫個展

7月22日～28日
銀座 スパンアートギャラリー

「ヴィーナス」（部分）

会場風景

金田千佳個展

9月30日～10月5日
銀座 楪画廊

「夢の跡」

表現主義への痕跡
佐伯武彦展

7月28日～9月16日
兵庫県立円山川公苑美術館
主催 兵庫県教育委員会
豊岡市文化協会
FM ジャングル 76.4MHz

三阪雅彦洋画展
—風の旅人—

11月7日～13日
大阪市
あべのハルカス
近鉄本店タワー館
美術画廊

釈迦十大弟子の作品を中心に展示。

「春来る」

福田利明展 —時間（とき）の記録・記憶—

4月12日～24日　千葉市ギャラリー睦

福田利明展 —時間（とき）のしぐさ—

9月3日～11月4日
千葉県酒々井町
MAGARIYA
GALLERY

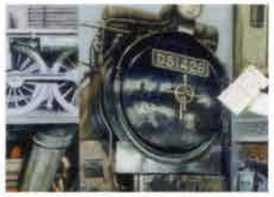
「A LINE」（部分）

「時間のしぐさ—ARARAT—」

君津在住 一陽会作家 4 人展　2013年2月17日～24日　君津市生涯学習交流センター

河野宇多子「煌彩」（部分）

木下隆裕「明日」（部分）



木匠幸江「鉄路の記憶」（部分）

宮坂和子「high-techの行方」（部分）

第7回モナコ・日本芸術祭　3月8日

前田睦「月影」が名誉賞を受賞

垣内カツアキ フランス回想展

「塔の見える窓辺」

9月5日～11月29日　伊那アルプス美術館

古野恵美子展　12月3日～15日

京都市ギャラリーα　「早春」（部分）

日本ガラス絵協会展　7月1日～14日　ギャラリー一枚の繪　一陽会出品者5氏

石川三知代「花筏」

加納勝子「天への贈物」

川口文子「香り」

古賀敦子「デュエット」

高岡　徹「夏の景色」

第10回DuNORD展　3月25日～3月30日　銀座 井上画廊

小嶋英子「THE EARTH 2012」

藤田裕子「A氏の肖像」

坂井幸子「時を刻む」

本間くみ「いずこへ…Ⅷ」

井上季子「白龍現わる」

セレクトナイン展　10月14日～19日
銀座 画廊るたん

棚倉英雄「制覇」

岡村順一「地の譜—兆し」

女流絵画4人展 Crop

12月12日～19日
麻布十番
ギャラリーモナ

秀島有子「スーベニアショップ」（部分）

「THE SKY NO ONE SAW 氷のアラベスク」

小松富士子・中畔千嘉 二人展
12月16日～28日 銀座 ギャラリー福山

第26回象 油彩三人展
11月25日～12月1日

京橋
ギャラリーくぼた

山田幸彦
「繋ぐ('13-Ⅱ)」

21世紀空間思考展

7月24日～8月5日
日本橋三越本店6階
アートスクエア
一陽会彫刻部会員3人が出品。
三人三様の立体へのアプローチ。

伊藤正人「静寂」
ピアニロ・カラーラ／イエローオニックス

染谷義之「内包59」
楠／アクリル塗装

矢野　真
「銀河鉄道の夜―02504」
樺／アキーラ／エポキシ樹脂／
鏡／御影石

Vol-27
武田守弘 ときめき My Heart<2013>

6月17日～22日　銀座 ギャラリー現

Vol-28 武田守弘展

12月7日～23日
西池袋 千年画廊 cafe

絵画＆版画 五人展

2014年
1月16日～19日
アミューズメント佐渡
1階展示室

北村五十一「シンフォニー」

市橋輝之「風化」

石塚ホヅエ「ぎざし」

椿　智美「心思'13」

（14ページからのつづき）

関西支部
KANSAI

2013年度 関西支部活動状況
（2013年2月～2014年1月）

■展覧会

●第51回関西一陽展　2013年3月12日～17日
大阪市立美術館

＊国立新美術館での一陽展とは別の、関西独自の公募展として50回を越え、例年、新たな出品者の広がりも見せている。支部会員、出品者にとって、この関西一陽展が秋の一陽展に向けたスタートとして位置づけられていると言える。

＊初日に会場において出品者の合評会（ギャラリートーク）を実施し、多数参加。支部会員による一人ひとりへの講評は励みになった。

＊初日夕刻より、授賞式と懇親会を開催。受賞者、初入選者からの抱負も聞かれ、有意義なひとときだった。

＊入場者も3000人を超え、盛況だった。さらに、出品者が増える工夫をしたい。

＜出品状況＞　支部会員　絵画　81点（50人）
彫刻　8点（5人）
入　選　絵画　69点（41人）
彫刻　1点（1人）
入場者　3078人

＜受賞者＞
関西一陽賞　今浦　稔(絵)
大阪市長賞　澤田貢三(〃)
大阪市教育委員長賞　後藤　杏(絵)
ホルベイン賞　濱上寛司(〃)
奨励賞　木寅　勉　田坂奈美子　檀野計藏
中西敦子　西村恵美子　藤田安臣
水谷浩三　三好利治　橋本雅美
（以上、絵）
会友賞　豊岡知世枝(絵)

●2013一陽会関西作家展　7月3日～7日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー

＊神戸での開催が定着。20号～50号までの新作を一人1点ずつ展示。観覧者も多く、好評。

【出品】（絵画・40点）
安孫子百合　泉谷淑夫　榎本紀代文　大西正雄
大東明宏　奥村佳弘　尾島　守　川辺嘉章
楠森道剛　古曽成樹　佐野儀雄　墨川廣徳
隅田博美　宗　保江　高孝壬津子　たつみゆうこ
辻本光彦　土井　稔　豊岡知世枝　中田絵里
永田啓子　新村則一　西浦まゆみ　西尾昭子
西谷のり子　西山眞理子　橋本紀夫　廣門幸三
福井建彦　福家省造　藤本元美　古川晶弘
古野恵美子　松村一夫　三阪雅彦　岬　和男
水谷喜美子　溝下美代子　三村恵理　宮口　観
山下潤志

●第59回一陽展＜大阪展＞　10月22日～27日
大阪市立美術館地下展覧会室

＊絵画112点　版画4点　彫刻 10点の展示
巡回作品　絵画・版画45点　彫刻4点
関西支部会員（委員・会員・会友）作品
絵画・版画52点　彫刻4点
関西の入選作品　絵画17点　彫刻2点

＊入場者　2791人

＊国立新美術館に続く巡回展にふさわしい、大作に応じた展示を行い、充実した展覧会になった。

＊初日の懇親会に、細川委員、濵田委員が出席。会場でのギャラリートークと併せて、作品の講評などをいただいた。

＜受賞者（関西支部関係）＞
鈴木信太郎賞　大東明宏(絵)
特待賞　今浦　稔　坂本真左子(〃)
奨励賞　田坂奈美子(〃)
賞候補　平田せつ子(〃)
会員賞　永田啓子　橋本紀夫　古野恵美子（〃）
会員推挙　榎本紀代文　楠森道剛(〃)
豊岡知世枝　藤井　悟(〃)
会友推挙　坂本真左子　田渕幹夫(〃)

■2013年度の支部行事

●事務局会議

＊支部会議のおよび展覧会の前に随時開催
・1月13日・3月10日（関西一陽展陳列担当）
・4月27日・8月18日（臨時＝支部の活性化について）
・9月28日・10月19日（一陽展陳列担当）・11月16日

●支部会議

・5月12日　第59回一陽展諸準備、発送事務
関西一陽展反省など
・9月15日　第59回一陽展出品作品の把握（下見）
・10月6日　一陽展＜大阪展＞諸準備、発送事務
・12月1日　決算総会（第49回関西一陽展発送事務）
・2014年1月19日　年度当初総会・新年会（年間計画、予算、第52回関西一陽展準備など

●研修会

＜高島屋企画展覧会「一陽会と高島屋」の鑑賞＞
4月6日　大阪・高島屋資料館

・一陽会創立メンバーの一人である高岡徳太郎先生はじめ一陽会創立に関わった先人の方々の展覧会を高島屋が企画。（会期は4月1日～6月25日）一陽会創立当時の息吹を感じ、参加者一同、感銘も大きかった。（写真）

＜一陽展に向けての作品講評会＞
8月18日 エル・おおさか

＊一般出品者、会友の作品の講評を行い、出品に向けての意欲が高まり、受賞や初入選を果たすなどの結果を残すことができた。

■個展

●美しい驚き・泉谷淑夫展　3月20日～4月1日
岡山・アートガーデン

●第2回榊原　釣絵画展　3月14日～8日
大阪・LICはぴきの1F交流プラザ

●平田せつ子展　3月26日～31日
アートスペース　フジカワ

●表現主義への痕跡・佐伯武彦個展　~その彷徨と挑戦~
7月28日～9月16日　兵庫県立円山川公苑美術館

●土井稔　Minoru Doi 絵画展　KOBEイエスタデー
9月8日～14日　神戸・ＢＢプラザ美術館

●三阪雅彦 洋画展―風の旅人―　11月7日～13日
あべのハルカス近鉄本店タワー館11階美術画廊

●古野恵美子展　12月3日～15日　京都・ギャラリーａ

■日本美術家連盟全近畿地区会員展
＜きのうとあすの対話Ⅱ＞　5月30日～6月9日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー
（絵）佐野儀雄　岬　和男　川辺嘉章　橋本紀夫
福家省造　山下潤志　澤田貢三
（彫）津野充聡　矢野　真

■2013年度のコンクール入賞・入選など

●第58回全関西美術展（大阪市立美術館・7月）

佐野儀雄(招待)山下潤志(招待)
奥村佳弘　中川香代

●**京展**　(京都市美術館・7月)　福家省造

●**第10回小磯良平大賞展**　10月
尾島　守（佳作賞）　泉谷淑夫

■**美術館企画展など**

●**第21回川西市展(2月)**　川西市中央公民館・文化会館　審査員　水谷喜美子　奥村佳弘

●**第28回日本の海洋画展**(全日本海員福祉センター主催)　(7月～) 横浜市民ギャラリーほか
古曽成樹

●**守口市展、赤穂市展(9月)**　審査員　水谷喜美子

■**支部会員・関西出品者の各種展覧会での作品発表**
(企画展、グループ展など)

●**アートフォーラム宇治美術展**　3月7日～10日
宇治市文化センター　福家省造

●**第27回ハクの会作家展**　10月29日～11月3日
京都府立文化芸術会館
奥村佳弘　福家省造　古川晶弘

●**第5回・Ｆ６展**　12月2日～7日
大阪・マサゴ画廊　松村一夫

●**The 10th Salon DO Painting exhibition**
12月6日～11日　守口文化センター
安孫子百合　小林祐子　高孝壬津子　田渕幹夫
壇野計蔵　西山眞理子　水谷喜美子　水谷浩三
森本正義　山岡正美

■**2014年度　関西支部の主な予定**

●**第52回関西一陽展**　3月11日～16日
大阪市立美術館

●**2014一陽会関西作家展**　5月28日～6月1日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー

●**第60回一陽展＜大阪展＞**　10月21日～10月26日
大阪市立美術館

●**第53回関西一陽展**　2015年3月10日～15日
大阪市立美術館

●**研修会**　一陽展出品作品の下見会
8月10日（日）　13:00～　エル・おおさか

■**2014年度関西支部事務局**

事　務　所　山下潤志
会　計　部　(支部会計)　藤本元美
(関西展会計)　水谷喜美子
(大阪展会計)　曇川廣徳
事　業　部　上田純子　大東明宏
川辺嘉章　福家省造
(会計監査・・・小松正司　丹後香子)
(相談役・・・・委員)

★「支部会員」とは関西支部に所属する委員、会員、会友をさします。

(福家省造・山下潤志　記　　文中敬称略)

福井一陽会
FUKUI

■**2013活動報告**

福井一陽会新年会　1月13日
ホテルフジタ　3階瑞雲の間

福井一陽会役員会　3月19日
福井県立美術館　第1展示控室
12月1日　トラットリア　チャオ

福井一陽会総会　4月7日　豆狸

作品研究会Ⅰ　6月15日
福井県立美術館　研修棟

作品研究会Ⅱ・合評会　7月20日
中藤小学校　低学年多目的スペース

作品サブ研究会　7月21日
カルチャーメイツ春江

●**個展等**

＊渡辺妙子・松井優子二人展　5月1日～30日
福井厚生病院ロビー　渡辺妙子、松井優子

＊宮川正市展　9月1日～30日
文化の館（鯖江市）　宮川正市

●**公募展**

＊第5回鯖江市美展　3月1日～5日　響陽会館
運営委員・無鑑査出品　宮川正市
審査員・審査員出品　佐川文子

＊第25回市美展ふくい　5月17日～26日
福井市美術館
絵画造形部門
審査員・審査員出品　佐川文子、清水正男
無鑑査出品　内藤　汎、畑　透仁
福井市議会長賞　西藤節子
ＦＭ福井賞　郡谷美穂子
奨励賞　坪田美代子、武鎧恭子、松井優子
村上禮子、渡辺妙子
一般入選　石田孝子、茨山芙美子、阪口美幸
櫻川幸代、白崎榮子、竹内光一、孫崎公子

＊第29回福井サムホール展　7月19日～29日
福井放送会館カルチャーセンター
絵画造形部門　井ザワ賞　武鎧恭子

＊第59回　一陽展　10月2日～14日
国立新美術館　出品者37名
スカラベ賞　佐川文子　会友推挙　白崎榮子
奨励賞　谷口恵子、三谷滋子
入選21名

＊第33回福井県市町村文協選抜美術展
9月21日～23日　小浜市　宮川正市

＊第１２回北国街道アート展　10月11日～22日
鯖江市商店街　宮川正市

＊第64回福井県総合美術展 10月11日～20日
福井県立美術館
絵画造形部門　審査員・審査員出品　岩永勝彦
佐川文子
審査員特別賞　清水正男、宮川正市
福井テレビ賞　内藤　汎
一般入選　石田孝子、茨山芙美子、大森英節
郡谷美穂子、児玉常聖、坂井和子、阪口美幸
櫻川幸代、北嶋三智子、島田くみ子、白崎榮子
竹内光一、谷口恵子、坪田美代子、中西美恵子
西藤節子、畑　透仁、牧田聖代、孫崎公子
増澤恵美子、松井優子、丸山和子、三谷滋子
村上禮子、村田宏人、森山英樹、渡辺妙子

＊第38回鯖江市美術協会展　10月25日～27日
響陽会館　宮川正市

＊第54回鯖江市文協展　11月8日～10日
響陽会館　宮川正市

＊第６回鯖江市美展　12月13日～17日
響陽会館　運営委員・無鑑査出品　宮川正市
審査員・審査員出品　佐川文子

＊第63回福井県勤労者美術展　12月12日～15日
福井県立美術館
絵画造形部門　福井県労働福祉会館理事長賞
奨励賞　孫崎公子
入選　櫻川幸代、松井優子

●**グループ展他**

＊スプリングアート展　3月6日～10日
福井県立美術館　佐川文子、石田孝子
茨山芙美子、坂井和子、阪口美幸
櫻川幸代、白崎榮子、谷口恵子
坪田美代子、中西美恵子、松井優子
丸山和子、　村上禮子、渡辺妙子

＊福井一陽展　3月20日～24日
福井県立美術館　第一展示室
石田孝子、茨山芙美子、岩永勝彦、大森英節
北嶋三智子、児玉常聖、郡谷美穂子、坂井和子
阪口美幸、佐川文子、櫻川幸代、島田くみ子
清水正男、白崎榮子、竹内光一、谷口恵子
坪田美代子、内藤　汎、中西美恵子、西藤節子
畑　透仁、武鎧恭子、真木康至、牧田聖代
孫崎公子、増澤恵美子、松井優子、松原照代
三谷滋子、宮川正市、村上禮子、村田宏人
森山秀樹、山峠敏美、横山純子、渡辺妙子
遺作出品　永岡章

＊第10回グループ彩展　水彩画　4月18日～21日
福井県立美術館　佐川文子、松井優子

＊第30回サムホール展　7月18日～28日
福井カルチャーセンター　入選　武鎧恭子

＊第21回グループS展　9月4日～8日
鯖江市　まなべの館
佐川文子、茨山芙美子、阪口美幸、白崎榮子
竹内光一、内藤　汎、中西美恵子、孫崎公子
松井優子

＊第53回記念ぺんぺん会展　8月28日～9月1日
鯖江市　まなべの館
佐川文子、石田孝子、松原照代、横山純子

＊第５回吉川クラブ展　9月18日～23日　鯖江市
まなべの館)　宮川正市

＊第20回アトリエ展（9月26日～29日　福井県立美術館）
北嶋三智子、大森英節、島田くみ子、児玉常聖
増澤恵美子、丸山和子、三谷滋子、森山秀樹

＊５人展　10月25日～27日　呉市文化ホール
森山秀樹

＊第９回IHI　OB展　10月25日～27日　IHI横浜
11月18日～22日　IHI東京本社
森山秀樹

＊第２回北陸銀行展示会　11月2日～22日
北陸銀行ギャラリー
北嶋三智子、大森英節、島田くみ子、児玉常聖
増澤恵美子、丸山和子、三谷滋子

＊佐川文子　スカラベ賞受賞記念パーティ
11月10日　ユアーズホテルフクイ　34名参加

(真木康至　記)

石川支部
ISHIKAWA

■**活動報告**

●**総会**　4月21日　ガーデンホテル金沢

●**作品研究会**　3月10日　インプレス

●**作品研究会**　7月7日　インプレス

●**作品研究会**　8月10日　市民工房うるわし
本部より細川尚運営委員を招聘し、作品講評会・懇親会を開催。

●**本展反省会・臨時総会**　12月8日　金沢都ホテル
石川支部運営委員を改正
支部長　大場吉美
顧問　浮田正樹、野中未知子
副支部長　竹田明男

事務局長　白井正浩
委員　飯田恭彦、和泉　洸、大鍬英治、柴山桂子
中野久賀子、中本邦夫、西山恭申、益田恭行
安田　淳

●一陽会石川支部2014小品展　3月4日～9日
金沢21世紀美術館

■個展

●飯田恭彦洋画展　5月21日～28日
津幡町文化会館シグナス

●竹中外喜博絵画展　6月2日～30日
かほく市まちかど交流館

●竹田明男個展　6月28日～7月3日
グリーンアーツギャラリー

●金田千佳個展　9月30日～10月5日　櫟画廊

●大鍬英治彫刻展…点の世界…　1月4日～2月16日
石川県銭屋五兵衛記念館

■公募展

●第69回現代美術展　3月30日～4月16日
石川県立美術館
副理事長出品　大場吉美
委員出品　野中未知子、安田　淳
会員・審査員出品　浮田正樹、竹田明男
会員出品　柴山桂子、白井正浩、中本邦夫
西山恭申、益田恭行
準委嘱賞　浮田正樹
次　賞　飯田恭彦、中野久賀子、川村甚子
北國賞　尾山隆夫、金田千佳
佳作賞　阿部正子、中田雅子、松井三枝子
入　選　和泉洸、大鍬英治、城戸清子、小島信子
小西明人、芝西広美、中竹外喜博
中谷美和子、平林辰洋、山崎綾乃
田方勇、岩城和恵、卜部良子、巻砂紀恵
南ヒサコ、吉野美策子

●第17回日仏現代国際美術展　4月2日～6日
東京都美術館　委員出品　安田　淳

●第30回記念FUKUIサムホール美術展
7月18日～28日　佳作　西山恭申

●第２回野々市市美術展　8月30日～9月8日
野々市市情報交流館カメリア
理事・審査員出品　竹田明男
会員・審査員出品　西山恭申、尾山隆夫

●日仏現代美術展2013選抜展　9月24日～29日
大森ベルポート
国際文化功労者賞・委員出品　安田　淳

●七尾市美術展覧会　11月1日～4日
石川県七尾美術館
審査員出品　野中未知子
佳　作　巻砂紀恵
入　選　中谷美和子

●第25回志賀町を描く美術展　12月11日～15日
石川県立美術館　竹中外喜博

■グループ展

●野々市市椿まつり　3月16日～17日
野々市市文化会館フォルテ　竹田明男、尾山隆夫

●第3回珠洲市出身・在住作家による新春美術展
3月16日～24日　飯田わくわく広場　吉野美策子

●叢生会三人展　3月20日～31日　寺井地区公民館
小西明人

●第４回日本美術家連盟会員展　―富山　福井　石川―　4月12日～15日　富山県民会館美術館
安田　淳

●三桜美術展　4月23日～29日　金沢21世紀美術館
城戸清子

●かほく市絵画愛好会展　5月12日～6月2日
うみっこらんど七塚　竹中外喜博、高田　勇

●第33回根上書道・絵画合同展
5月31日～6月2日　根上学習センター
和泉　洸、阿部正子、山崎綾乃

●第1回グループO展　6月5日～16日
うみっこらんど七塚
大場吉美、浮田正樹、飯田恭彦、川村甚子、
竹中外喜博、中谷美和子、平林辰洋、松井三枝子、
岩城和恵、巻砂紀恵

●能美市絵画協会展　6月12日～17日
根上学習セ　ンター
和泉　洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇

●第９回白山会南加賀造形美術展　6月20日～28日
能美市学習センター
和泉　洸、益田恭行、安田　淳、小西明人
芝西広美、山崎綾乃

●第53回小松美術展　6月29日～7月15日
市民ギャラリールフレ　益田恭行、安田　淳

●第36回有名作家チャリティー作品展
7月3日～8日　めいてつエムザギャラリー
浮田正樹、竹田明男

●叢生会展　7月10日～21日　寺井図書館
和泉洸

●ART　WAVE　EXHIBITION―世界に発信するベストアーティスト―　7月15日～20日
GINNZA　A'Sギャラリーアーティストスペース-
安田淳

●第19回七尾美術作家協会展　7月16日～18日
石川県七尾美術館　浮田正樹、野中未知子

●第９回能美市作家協会展　7月20日～28日
根上学習センター　和泉　洸、阿部正子
小西明人、山崎綾乃、田方　勇

●第23回津幡美術好友会展　7月24日～28日
津幡町文化会館シグナス

飯田恭彦、川村甚子、竹中外喜博、平林辰洋

●ART FESTIVAL　奈留島―世界に発信するベストアーティスト―　8月1日～31日
笠松宏有記念館　安田　淳

●根上絵画クラブ作品展　9月4日～10日
ギャラリーいずみ　和泉　洸、阿部正子、山崎綾乃

●絵画クラブ二人展　10月2日～13日
寺井地区公民館　小西明人

●かほく市文化祭　10月3日～27日
かほく市体育館　松井三枝子

●航空祭　10月12日～13日　日本航空学園
吉野美策子

●地区文化祭展　10月19日～20日
井上コミュニティプラザ　川村甚子

●第６回赤とんぼ展　10月24日～27日
ラポルトすず　吉野美策子

●此花文化祭　10月25日～27日　此花町公民館
小島信子

●第56回津幡町文化展覧会　11月1日～3日
津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、川村甚子、平林辰洋、岩城和恵

●叢生会文化祭　11月1日～14日　寺井図書館
和泉　洸

●能美市文化祭　11月2日～4日
根上文化会館タント
和泉　洸、阿部正子、田方　勇

●第２回野々市市美術文化協会展　11月4日～10日
野々市市情報交流館カメリア
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫

●インスタレーション4人展　11月6日～17日
石川国際交流サロン　大場吉美

●2013CAF.N展inせんだい　11月8日～13日
せんだいメディアテーク　安田　淳

●伎芸展　11月9日～10日　宝立公民館
吉野美策子

●第９回津幡美術作家協会展（小品展併設）
11月13日～17日　津幡町文化会館シグナス
浮田正樹、飯田恭彦、川村甚子、竹中外喜博
平林辰洋、松井三枝子、高田勇、山田裕一

●第19回七尾美術作家協会歳末チャリティー展
11月16日～18日　フォーラム七尾
浮田正樹、野中未知子

●ざぶん展　11月22日～24日　近代文学館
柴山桂子

●能美市作家協会N展　11月23日～12月1日
能美市学習センター
和泉　洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇

●第53回歳末美術展　11月27日～12月2日
香林坊大和
大場吉美、浮田正樹、飯田恭彦、柴山桂子
白井正浩、竹田明男、中野久賀子、中本邦夫
西山恭申、野中未知子、益田恭行、安田　淳
阿部正子、尾山隆夫、城戸清子

●大作展　12月4日～9日　ギャラリー新神田
柴山桂子

●能美市歳末助け合い入札展　12月6日～8日
寺井地区公民館　阿部正子

●第50回歳末美術展　12月13日～16日
小松芸術劇場うらら　安田　淳

●BJ8 第8回美術準備室展 「幸」―happiness―
12月14日～23日　福井市美術館　安田　淳

●ニュアンス2展　1月3日～31日
しら井ギャラリー　浮田正樹、野中未知子

●叢生会かきぞめ展　1月4日～15日
能美市公民館　和泉　洸

●根上絵画クラブ新春展　2月1日～14日
アートギャラリータント
和泉洸、阿部正子、山崎綾乃

●かほく市絵画愛好会展　2月9日～3月2日
うみっこらんど七塚　竹中外喜博

●寺井絵画クラブ新春展　2月27日～3月10日
寺井地区公民館　田方　勇

■その他

●雑誌「航空技術」
2014年1月号に、第59回一陽展奨励賞受賞作品が掲載されました。　吉野美策子

●赤の魅力　宮本三郎とそれぞれの赤
3月19日～6月23日　宮本三郎美術館
小松市立美術館収蔵作品展示　安田淳

★2014年1月より、石川支部事務所が白井正浩方に移転しました。

（白井正浩　記）

富 山 一 陽 会
TOYAMA

■活動報告

■４月

●洋画2012年in庄川展　庄川美術館
招待　萩中幸雄、山本文郎

●新萩の会作品展　富山市民プラザ
萩中幸雄、菊　昌隆、山田明子、竹森由希子

●富山一陽会春季展　富山県民会館
大作一人1点　計23点

■５月

●滑川市美術連合展　滑川市立博物館
笹山満義

●東秩父版画フォーラム　東秩父村和紙の里
永澤一美

■6月
●第68回富山県美術展　富山県近代美術館
審査員　泉谷淑夫先生
県展大賞　荒井哲夫
県展賞　古田恵子
佳　作　池田国男
入　選　桝田律子、伏黒由利子、永澤一美
武田清子、高橋久仁子、姫路広司
梶原信男、根建カズヨ、橋本武嗣
藤木良一、冨岡博子
会員出品　萩中幸雄
●なないろ流星展　富山県民会館　桝田律子
●となみ野美術展　砺波市美術館　山本文郎
●小杉采芳会　アイザック小杉文化ホール
竹内隆男

■7月
●富山県洋画連盟新川地区会員展　滑川市立博物館
笹山満義
●滑川洋画連盟展　滑川市立博物館　笹山満義
●古田恵子展　アートギャラリー栄　古田恵子
●七夕会作品展　アートギャラリー栄　菊　昌隆
●上市美術会会員展　西田美術館　池田国男
●富山市洋画作家連盟展（小品展）　ギャラリー栄
萩中幸雄、桝田律子、古田恵子

■8月
●第59回一陽展出品事前研修会　富山市民プラザ
講師　泉谷淑夫先生
出品24人　24点　その他11点
●野萩の会展　富山市民プラザ
萩中幸雄、菊昌隆、橋本武嗣、姫路広司、
藤木良一、酒井建蔵、寺脇圭子
●上市町美術展　北アルプス文化センター
池田国男（町展賞）、酒井建蔵

■9月
●氷見市美術展　氷見市民会館
招　待　狭間潤子
市展大賞　永澤一美
●セブンクロスツー展in砺波　砺波市美術館
笹山満義
●射水市芸術文化協会美術展　高周波文化ホール
竹内隆男
●小杉采芳会小品美術展　小杉展示館　竹内隆男
●四志の会　星の街ギャラリー　橋本武嗣
●県民芸術祭2013生活文化展　砺波市文化会館
山本文郎

■10月
●第59回一陽展　国立新美術館
会員推挙　桝田律子
一陽賞・会友賞　古田律子
会友推挙　武田清子
奨励賞　姫路広司
賞候補　根建カズヨ
新入選　酒井建蔵、寺脇圭子
他16名　出品展示
●砺波市展　砺波市美術館　山本文郎
●小矢部市善意作品頒布会
小矢部市総合福祉センター　狭間潤子
●菊　昌隆作品展　北陸銀行呉羽支店　菊　昌隆
●伏黒由利子・狭間潤子二人展　富山県民会館
●富山県洋画連盟砺波地区会員展
北日本新聞砺波支社　山本文郎
●一陽会大阪巡回展　大阪市立美術館　古田恵子

■11月
●富山市美術展
富山市民プラザ・アートギャラリー
招待出品　萩中幸雄、桝田律子、古田恵子
入　選　武田清子、姫路広司（奨励賞）
菊　昌隆、根建カズヨ、冨岡博子
●富山県美術連合展　富山県民会館
萩中幸雄、山本文郎、笹山満義、桝田律子
丸山敦子、永澤一美、荒井哲夫、古田恵子
武田清子
●越中アートフェスタ　富山県民会館
審　査　萩中幸雄
優秀賞　古田恵子
奨励賞　橋本武嗣
入　選　桝田律子、永澤一美、姫路広司
菊　昌隆、根建カズヨ
藤木良一、梶原信男
●富山県洋画連盟富山地区小品展
北日本新聞本社ギャラリー　萩中幸雄、桝田律子
●富山市民大学文化祭　富山市民プラザ
招待出品　萩中幸雄、菊　昌隆、根建カズヨ
藤木良一
●版画2013年in庄川展　庄川美術館　永澤一美
●日本版画会展　東京都立美術館
準会員　永澤一美
●氷見版画会展　小さな美術館　永澤一美
●県洋画連盟内なる風景画展
北日本新聞本社ギャラリー
萩中幸雄、山本文郎、笹山満義、桝田律子
古田恵子
●ねいの会作品展　婦中ふれあい館　荒井哲夫
●射水市名士作家頒布会　高周波文化ホール
竹内隆男

■12月
●古田恵子展　高岡町屋ギャラリー　古田恵子
●富山駅北地下道市民ギャラリー展

富山駅北地下道市民ギャラリー
藤木良一、酒井建蔵
●野萩の会展　富山市民プラザ　菊　昌隆
姫路広司、藤木良一、酒井建蔵、寺脇圭子
●全日本アートサロン絵画大賞展　国立新美術館
優秀賞　伏黒由利子
●越中アートフェスタ巡回展
北日本新聞社新川　古田恵子、橋本武嗣
高岡文化ホール　古田恵子、橋本武嗣
北日本新聞社砺波支社　古田恵子
●菊　昌隆作品展　北陸銀行藤の木支店　菊　昌隆

■2月
●富山市美術作家連合展　富山市民プラザ
萩中幸雄、桝田律子、古田恵子、荒井哲夫
冨岡博子、菊　昌隆、橋本武嗣、姫路広司
藤木良一、根建カズヨ

■3月
●生涯学習フェスティバル　婦中ふれあい館
荒井哲夫
●砺波市美術協会展　砺波市美術館　山本文郎
（笹山満義　記）

長　野　支　部
NAGANO

■支部活動
●総会　3月17日
ホテルニューステーション（松本市）
●第46回一陽会長野展　7月23日～28日
ギャラリー82（長野市）
招待作家2名　2点
絵画36名　36点
彫刻2名　2点
＊作品研究会　7月22日　午後1時～4時
細川尚委員、濱田清委員を講師に実施
●第59回一陽展受賞者・初入選者等
会員推挙　島田広之、林政人、松川勝男
会友推挙　渡辺顕久
奨励賞　峯村欣弘、宮川元宏、横山優子
初入選者　本田和子

■個人・グループ活動他
●垣内カツアキ展Ⅰ　3月20日～4月26日
●垣内カツアキ展Ⅱ　5月5日～7月23日
●垣内カツアキ水彩画展　7月25日～9月3日
●垣内カツアキフランス回想展　9月5日～11月29日
以上　伊那アルプス美術館（箕輪町）
●垣内カツアキ新作展　6月4日～7月5日
伊那アルプス信用金庫
●春原　功彫刻展（彫・友）　4月30日～5月5日
長野市ギャラリー82
●小林一夫展（彫・運営委員）海の気・森の気
10月19日～11月24日　夢の庭（上田市）

小林一夫展
海の気森の気
2013年10月19日～11月24日

●松川勝男（絵・友）　第65回長野県展
JA中央会賞受賞
（田中　渉　記）

中　部　支　部
CHUBU

■支部活動
●第50回記念　中部一陽展　5月29日～6月2日
名古屋市博物館
絵画72点・彫刻4点　合計76点
受賞者
中部一陽賞　山田晃平
中日賞　小島健司(彫刻)
東海テレビ放送賞　大橋壮久
奨励賞　高橋昭子、服部秀勝、今井嘉子
新人賞　横山満津子
中部一陽展50周年記念賞　西脇義照
会友賞　伊藤裕一
●夏期総会　7月20日　名古屋市芸術総合センター
●第40回岐阜一陽展　7月9日～15日
岐阜県美術館
彫刻　森島昭道、田口哲也、小島健司

絵画　久保田正剛、河井一郎、小畑恭子
西脇義照、野田美子、高森和子、常川雅子
木村満幸、後藤泰洋、山田晃平、志知佳子
大橋壮久、今井嘉子、横山満津子

●第59回一陽展　10月2日～14日　国立新美術館
受賞者・初入選者
絵画・会員推挙　伊藤裕一、西脇義照
会友推挙　大橋壮久、片野泰人
初入選　横山満津子
彫刻・植木力賞　三輪乙彦
野外彫刻賞　田口哲也

●第14回陽友会展　11月5日～10日
名古屋市民ギャラリー
野田美子、高森和子、橋爪　玲、常川雅子
木村満幸、大橋壮久、片野泰人、鈴木啓子
山田晃平、服部秀勝、志知佳子、岡本勇夫
高橋昭子　他5名

●新年総会　2014年1月25日　囲み屋

●中部展打ち合わせ会　3月8日
名古屋市芸術総合センター（名古屋）

■個人活動

◇2013年4月

●久保田正剛自選展　3月～6月
ロワジールホテル大垣

●6周年記念展　ギャラリー葵（一宮）　高森和子

●66回春艸展　愛知県美術館ギャラリー
中嶋美瑳子

●六陽展　名古屋市博物館　宿沢　浩

●第18回現代作家集団い・な・ざ・わ
稲沢市荻須記念美術館　加藤孝仁

●春の双鶴展　ギャラリー浜松及鶴
下保隆義

◇5月

●加藤美千代個展　ノリタケの森ギャラリー

●大垣美術家協会展　大垣文化会館
久保田正剛、志知佳子

●蒲郡市文協展　蒲郡市博物館ギャラリー
小田勝、片野泰人、岡本勇夫

●一畑山薬師寺文化祭　玄関ホール展示場
小田　勝、岡本勇夫

●尾張旭市芸術展　市民ギャラリー
加藤美千代、岩田悠子

◇6月

●一宮総合美術展　一宮文化センター
高森和子、木村満幸

◇7月

●養老町美術協会展　養老町民ギャラリー
久保田正剛

●養老教職員作品展　養老町民ギャラリー
久保田正剛

●マイ・アート展　由美画廊　下保隆義

●37回公募　森心会展　稲沢市荻須記念美術館
森心会長賞　服部秀勝

◇8月

●一宮美術作家協会展　一宮博物館
高森和子、木村満幸

◇9月

●2013西濃美術展　大垣市文化会館
久保田正剛、志知佳子

●大垣市アートフルタウンフェア参加　大垣市商工会
久保田正剛

●第11回クロッキー会素描展　豊川市文化会館
高橋昭子

◇10月

●大垣市展　大垣市文化会館　久保田正剛

●養老町美術展　養老町民会館　久保田正剛

●羽島市美術展　羽島市文化センター
今井田一己（審）、小畑恭子（審）

◇11月

●蒲郡市市民展　蒲郡市博物館ギャラリー
小田勝、片野泰人、岡本勇夫

●春艸会秋季展　セントラル・アートギャラリー
中嶋美瑳子

●一宮市美術展　一宮文化センター
高森和子（依）

◇12月

●一宮市現代作家美術秀選展　一宮市博物館
高森和子（依）

●チャリティ色紙展
＊岐阜新聞　マーサ21（岐阜）　久保田正剛
＊岐阜新聞西濃総局　イオン大垣　久保田正剛
＊養老美協　トミダヤ　久保田正剛
＊チャリティ朝日新聞社（名古屋）　丸栄
中嶋美瑳子
＊第20回チャリティ　0号100人展　ギャラリー聚
宿沢浩、中嶋美瑳子
＊毎日文化センター　色紙
文化センターギャラリー　久保田正剛、中嶋美瑳子

●豊橋市民展　豊橋市美術館　高橋昭子

◇1月

●水彩協会展　愛知県美術館ギャラリー
宿沢浩（審）

●グループYOU友展　ギャラリーモンペール（一宮）
野田美子、高森和子、木村満幸

●第７回８人の女流画家展
ノリタケの森ギャラリー（名古屋）　加藤美千代

●第3回「水母の会」絵画展
古民家カフェもくせいの花（豊川）
片野泰人、岡本勇夫、高橋昭子

◇2月

●羽島市美術協会展　羽島市文化センター
今井田一己、小畑恭子

◇3月

●河井一郎と仲間展　ジャック＆ベティ
（小畑恭子・野田美子　記）

神奈川支部
KANAGAWA

■支部活動

●研修会　6月15日　かながわ市民センター
59回一陽展に向けての作品講評会（参加者15名）
会友及び一般応募者の作品の下見講評を行った。
終了後、会場を変えて参加者の交流会を行った。

●第59回一陽展支部関係受賞者
奨励賞　村田忠夫(絵画)
会友推挙　青山孟夫（絵画）、緒方かおる（絵画）

●第18回神奈川一陽展開催会場についての説明会及び支部年末懇親会　12月5日　中国料理　煌蘭

●神奈川一陽展展示方法についての検討会
1月29日　市民ギャラリーあざみ野

■個人及びグループ活動

●ベストセレクション美術2013　5月4日～27日
東京都美術館　塩川慧子

●第10回蒼の会展　5月6日～11日
スルガ台画廊（銀座）
岩山義彦、磨井静子、内山靖子、小松啓子
菅原礼子、高瀬和夫、千坂　健、茶畑顕子
平野昭子、伏見伸彌

●ハマ展　あざみ野会員会友展　5月13日～19日
横浜市民ギャラリーあざみ野　村杉哲子

●：おんなの絵のチカラ：展　5月13日～18日
ギャラリー暁（銀座）
企画　林記一郎　塩川慧子

●詩画展　5月27日～6月2日　画廊　楽　村杉哲子

●第67回女流画家協会展　6月29日～7月6日
東京都美術館　塩川慧子

●女流画家協会秋田角館館展　7月13日～9月17日
秋田角館平福記念美術館　塩川慧子

●第3回女流吉象展　7月14日～20日
ギャラリームサシ（銀座）　塩川慧子

●第３回横浜開港アンデパンダン展
7月16日～22日　横浜赤レンガ倉庫1号館
緒方かおる

●虹の会小品展　8月12日～17日
サロン・ド・ジイ（銀座）　緒方かおる

●都会まるごとギャラリー2013「open the door」展
9月28日～11月30日
三洋印刷株式会社社屋内外（横浜）　衛守和佳子

●第69回ハマ展　10月27日～11月
横浜赤レンガ倉庫1号館倉庫ギャラリー
村杉哲子

●国際野外の表現展　12月1日から1年間
東京電機大学鳩山キャンパス内　衛守和佳子

●第5回華展　12月9日～19日
ギャラリーセイコウドウ（銀座）　横須賀康子

●新春絵馬展　2014年1月10日～18日　画廊楽
村杉哲子

●富岳展　2014年1月　お堀端画廊企画（小田原）
神部修成

●西湘美術協会春季展　2014年１月
小田原春木画廊　神部修成

●アトリエ美企画展　2014年6月
横浜プリンスホテル１F　神部修成
（千坂　健　記）

千葉支部
CHIBA

■支部活動

●幹事会、総会・新年会　2月3日
ホテルポートプラザ千葉

●千葉一陽会会友展　３月７日　会友（22名）
画廊ジュライ

●準備会（第36回千葉一陽会展について）　3月17日
勤労市民プラザ

●第36回千葉一陽展　6月11日
千葉市美術館市民ギャラリー

●第36回千葉一陽展研修会　6月15日
千葉市美術館市民ギャラリー

●第36回千葉一陽展授賞式・懇親会　6月15日
ホテルポートプラザ千葉

●第36回千葉一陽展ギャラリートーク　6月16日
千葉市美術館市民ギャラリー

●幹事会　11月15日　レストランほてい家

■個展

●鈴木利久展　4月2日　高知市文化プラザかるぽーと

●福田利明展　4月12日　ギャラリー陸

●福田利明展　9月3日　MAGARIYA　GALLERY

■グループ展

●日本ガラス絵協会展　1月7日　井上画廊
石川美千代会員、古賀敦子会員
加納勝子会友、川口文子会友

●第22回彩の會展　2月6日
イオン木更津店グリーンホール　細川尚委員主宰

●6人の女流作家展IN千葉　2月7日　画廊ジュライ
大久保綾子会員

●４人展　2月17日　君津市生涯学習交流センター

木下隆裕会員、河野宇多子会友
宮坂和子会友、木匠幸江会友

●DU　NORD展　3月25日　井上画廊
小嶋英子会員、坂井幸子会員　本間くみ会員

●暁Ⅲ展　3月25日　ギャラリー暁　福田利明委員
大北節子会員、大久保綾子会員

●ル・タン選抜展　4月1日　画廊るたん
河野緋紗子会員、古賀敦子会員　棚倉英雄会員
山田久子会員、大塚幸子会友、加納勝子会友
川口文子会友

●個の屹立展　4月15日　ギャラリー暁
大北節子会員

●ベストセレクション美術2013　5月4日
東京都美術館　濱田清委員、福田利明委員

●おんなの絵のチカラ展　5月13日　ギャラリー暁
大久保綾子会員

●Ressegna internazionale Le vie dell'arte
6月1日　Galleria Mentana/Firenze
大北節子会員

●みなづき展　6月11日　ギャラリー金巴里
細川尚委員主宰

●千葉市美術協会特別展秀作2013　6月18日
千葉市美術館市民ギャラリー
永倉一徳会員、宍倉綾子会友

●県展代表作家展in成田　6月22日
成田山書道美術館　小島鐵男委員、濱田清委員
福田利明委員、細川尚委員
田沼和夫会員

●日本ガラス絵協会展　7月1日
ギャラリー一枚の絵
石川三知代会員、古賀敦子会員
加納勝子会友、川口文子会友

●アトリエこうたき展　7月7日　プチ・フウユ
香焼直美会友主宰

●ante展　7月22日　Salon DE　G
大北節子会員、大久保綾子会員

●洋画小品展フェーズ30　9月5日　画廊ジュライ
福田利明委員、田沼和夫会員

●セレクトナイン展　10月14日　画廊るたん
棚倉英雄会員、本間くみ会員

●金巴里展（一部）　10月29日　ギャラリー金巴里
荒川幸知子会員
小沼由理子、香焼直美、林圭二
佐々木英子/会友
立石真悠、小西恵、髙澤佐恵子
細野美佳、前田博子/同人
吉田眞理子準同人

●金巴里展（二部）　金網照夫、河野緋紗子
林裕子、宮坂和子、山田久子/会員
伊藤はる子、岩田明美、宇梶陽子
小澤賢侑、河野宇多子、楠　忠臣
里地芳美、木匠幸江/会友
吉田静江同人

●一・一・彩・展　10月31日　画廊ジュライ
荒川幸知子会員
小澤賢侑、楠忠臣、楠　裕子、小沼由理子
林　圭二、原　　弘、渡辺とし子/会友
岸本清子、須藤建夫/同人
石川充男準同人

●ガモリープリントを遊ぶ　10月31日
スペースガレリア　福田利明委員

●千葉大同期の展覧会　11月14日　画廊ジュライ
濱田清委員

●November展　11月18日　ギャラリー暁
大北節子会員

●スペース45°展　11月28日　画廊ジュライ
福田利明委員

●第5回華展　12月9日　銀座ギャラリー清光堂
大久保綾子会員、香焼直美会友

■コンクールその他

●千葉市展　3月3日
市教育長賞　須藤建夫同人
奨励賞　小澤賢侑同人
会員推挙　若月弘会友

●福島県展　6月21日
準大賞　山口陽子会員
奨励賞　鈴木利久会員

●猫たちの遊々展2013　ほくさい美術館
優秀賞・私の好きな作品大賞　山本映子会員

●金谷美術コンクール　奨励賞　岩田明美同人
入　選　斉藤光彦会友

●第36回千葉一陽会受賞者
千葉一陽賞　岩田明美
千葉県立美術館長賞　原　　弘
千葉会友賞　宇梶陽子、小沼由理子
同人賞　小澤賢侑、芹川正志
同人努力賞　岸本清子
同人奨励賞　須藤建夫、髙澤佐恵子、細野美佳、
吉田静江
準同人秀作賞　石川充男
準同人褒賞　吉田眞理子
新人賞　鈴木弘美、田中香（彫刻）
佳作賞　川田チズエ、町田真良
奨励賞　安西あす香、板垣秀子、木村由美子、
髙木佳子、髙梨千枝子
葉萌賞　石井麻子、清宮みさ子、武田直美、
藤澤律子
同人推挙　小澤賢侑、佐野弘治、立石真悠

平下真弓
準同人推挙　髙木佳子

●第59回一陽展受賞者・初入選者
会友賞　宇梶陽子、楠　忠臣
特待賞　川上弘子、早瀬淳男
奨励賞　須藤建夫、芹川正志、吉田静江
田中香（彫刻）
会員推挙　井上峰子、川口文子、篠崎聡
宮坂和子
会友推挙　岩田明美、小澤賢侑、原　　弘
初入選　川上弘子、神戸貞子、鈴木弘美
立花大聖、田中　香（彫刻）
千葉支部からの入選者　17名

●千葉支部員の異動
新会員　井上峰子、川口文子
篠崎　聡、宮坂和子
新会友　岩田明美、小澤賢侑、原弘
新同人　川上弘子、神戸貞子、鈴木弘美
立花大聖、田中　香（彫刻）
新準同人　髙木佳子
退会者　会員　河西由紀子
会友　　上野義明
同人　　櫻田セツ
（田沼和夫　記）

茨城一陽会
IBARAGI

■支部活動

●第72回水彩連盟展　4月2日～14日
国立新美術館　阿部　進

●北沢努展　森に棲む2013　6月1日～7日
ギャラリー手鞠子（水戸市）　北沢　努

●さすらいの立体展　6月3日～8日
横浜吉田町画廊（神奈川県横浜市）
北沢　努（出品者10名）

●さすらいの立体展巡回展　6月10日～15日
銀座ゆう画廊（東京都中央区）
北沢　努（出品者10名）

●第12回彩の会水彩画展　7月7日～13日
ギャラリーオゾン（筑西市みどり町）
阿部　進（出品者13名）

●第10回記念　茨城一陽展　8月17日～25日
茨城県つくば美術館
雨谷達夫、宇留野信章、小川京子、舘野　弘
田邉光則、樋口三千代、山口　功、磯山芳男
飯田政子、海老根美奈子、小宅淑子、北沢　努
小坂和美、小田部実、酒井恒太、篠原　洋
清水紀子、鈴木しのぶ、中村義孝、馬場絢女
深谷直之、村山悦子、六﨑敏光、森山元國
谷津喜美代、劉　治国
招待作家　野沢二郎、SO-イズミ
記念特別展示　益子昭雄、山﨑　猛

●第13回アートグループQ絵画展　9月18日～23日
古河街角美術館　阿部　進（出品者21名）

●「問質の森」展　11月5日～10日
ギャラリーしえる（茨城県水戸市）
北沢　努（出品者3名）

●第42回SABO展　11月8日～13日
アートセンターギャラリータキタ（茨城県水戸市）
海老根美奈子（出品者5名）

●うしく現代美術展　11月17日～12月1日
牛久市中央生涯学習センター　中村義孝

●YEAR　END　EXHIBITION　OF　MINISCULPTURES
12月9日～21日　ギャラリーせいほう（東京都銀座）
中村義孝、深谷直之

●北沢　努展　森に棲む2013　12月11日～28日
space369（茨城県日立市）　北沢　努

●ちょっと小さな展覧会　12月17日～30日
ギャラリーサザ（茨城県ひたちなか市）
北沢　努、六﨑敏光（出品者120名）

■2014年

●宇留野信章個展　風景スケッチ展「ふるさとだより」
1月5日～15日　アートスペースナカタニ
宇留野信章

●先生たちの美術展2　1月13日～19日
古河街角美術館　飯田政子（出品者19名）

●第8回現代茨城作家美術展　1月18日～2月9日
茨城県近代美術館　宇留野信章、中村義孝

●第13回彩の会水彩画展　2月3日～8日
ギャラリーオゾン（筑西市みどり町）
阿部　進（出品者11名）

●第26回アートロード展　2月9日～15日
東海ステーションギャラリー
北沢　努（出品者54名）

●第26回土なかま彫塑展　3月2日～8日
東海ステーションギャラリー
北沢努、鈴木しのぶ、村山悦子、
谷津喜美代（出品者14名）

●第3回古河の絵画美術展　3月12日～4月24日
古河街角美術館　阿部　進（出品者17名）
（深谷直之　記）

新潟一陽会
NIIGATA

■活動報告

●高橋洋子日本画展　2月14日～25日
ギャラリーやまぼうし

美術評論家・林紀一郎先生には一人ひとり、厳しくも丁寧な講評をいただきました。

昨年の総括と会計報告。
これからの会員獲得に向けてのアイデア、予定の時間を越えて活発な意見交換ができました。

●ＡＲＩＷＡＶＥ選抜展　3月20日～25日
ギャラリー暁（東京銀座6）　市橋哲夫
●にいがたの写実作家展　5月26日～6月30日
総合コミュニティセンター　長谷川清晴
●第18回新潟アンデパンダン展　5月15日～18日
市民芸術文化会館　駒村励吾
●長谷川清晴展（えんぴつ＆ＳandＰlayの世界）
7月9日～21日
●Inspire展　8月16日～24日
ギャラリーやまぼうし（新潟）　市橋哲夫
●高橋洋子・銅版画個展　9月2日～28日
宮本ギャラリー（長岡）
●第46回南魚美術展　9月5日～8日
南魚市デスポート　山本安雄・桑原　收
●第20回長岡市美術協会展　9月13日～16日
長岡美術センター　木村保夫
●第23回南魚美術協会展　10月11日～14日
市立Ｂ＆Ｇ体育館　桑原　收・山本安雄
●第45回美術協会展　10月16日　新潟市美術館
高山久子
●高橋洋子・銅版画個展　10月24日～29日
羊画廊（新潟）
●高橋洋子・銅版画個展　11月2日～30日
ギャラリー余韻（新潟）
●ギャラリー創紅葉季展　11月17日～24日
ギャラリー創（新潟）　木村保夫
●市橋哲夫個展　11月17日～26日
ギャラリーやまぼうし（新潟）
●版画作品展　11月10日～24日　しめばり山荘
市橋輝之
●絵画と版画　５人展　1月16日～19日
アミューズメント佐渡　市橋輝之、石塚ホヅエ
北村五十一、椿智美
（友人賛助出品、祝優雄氏）
（鈴木力　記）

高知一陽会
KOUCHI

■活動の経過
●勉強会　6月17日
●一陽会高知'13展　7月18日～23日
高知市文化プラザ市民ギャラリー（高知市）
●定例会　1月18日
■活動の総括
●グループ展（一陽会高知'13展）
25回目のグループ展。高知一陽会メンバー5名が、秋の本展出品予定作品も含め各2点を持ち寄り、陳列展示した。なお、昨年度他界された故竹村晴夫会員の遺作を特別出品として2点陳列した。
●勉強会
上記グループ展陳列終了後、十分な時間の中で各出品作品について率直な指摘と意見の交換を行った。その成果は大黒郁代会友の会員推挙として現れた。
●定例会
従前の定例会での主たる協議題である次年度活動内容に関する事柄に加え、11月に全メンバーに配布した一陽会事務所発の「一陽会支部長、グループ長会議議事録資料」に関し、それをもとに諸々の事項について意見交換を行った。
■個人的活動
●第11回"グループ彩"作品展　4月16日～21日
大黒郁代
●高知県「洋画・日本画」合同無鑑査展
7月26日～31日　高新画廊（高知市）　大黒郁代
●「絵の中の女性たちと"はちきん"たちの美の世界」展
8月2日～11月3日
中土佐町立美術館（高知県）　大黒郁代
●第66回高知県展　10月4日～20日
高知県立美術館
大黒郁代（無鑑査）、末田光一（無鑑査）
寺尾立子（入選）、平田慎一（入選）
（末田光一　記）

青森一陽会
AOMORI

◇5月
●北画会展　出品…土岐千佳子
◇6月
●青森一陽会打ち合わせ会
今年度の計画等について
●第67回女流画家協会展　出品…対馬玲子
◇7月
●第35回記念青森一陽会展（青森市民美術展示館）
棟方寅雄遺作特別展示
◇8月
●第61回青森美術会平和展（青森市民美術展示館）
出品…笹森眞紀子、対馬玲子、対馬久世喜
◇9月
●フォルム研究会　（青森中央市民センター）
出席…対馬玲子、対馬久世喜
◇10月
●第59回一陽展　国立新美術館
高岡徳太郎賞　逢坂清悦
奨励賞　奥田君子、北川三千枝
初入選　福井和子
●第54回青森県美術展覧会（県展）　県立美術館
招待出品　対馬久世喜
●第48回社会福祉協議会色紙展　協議会会館）
出品　対馬久世喜
●第25回青森一陽会小品展
ギャラリー「クレラシオン」（弘前市）
◇11月
●第43回教美展　青森市民美術展示館
出品…逢坂清悦、中嶋強、笹森眞紀子
土岐千佳子、新戸部一弘、対馬久世喜
●市民センターデッサン展　中央市民センター
出品…対馬玲子、対馬久世喜
●クロッキー会（年3回）
●デッサン会（毎週土曜日）
それぞれ多数出席している。
（対馬久世喜　記）

秋田一陽会
AKITA

●第38回秋田県秀作美術展　3月14日～17日
秋田県立美術館
榎江里子、小玉律子、菅野　操、高橋章子
渡辺喜久蔵
●第13回港洋画人展　5月8日～21日
秋田市北部サービスセンター　石川恭子
●第30回グループ燿石川恭子教室展
5月9日～12日　秋田市アトリオン
●榎江里子教室グループ晃展　6月7日～11日
秋田市アトリオン　菅野　操、小玉律子
●榎江里子・眞崎桂子合同教室展　7月24日～26日
秋田市アトリオン
●2人展示会　8月8日～9月10日
秋田県生涯学習センター　菅野　操、高橋章子
●第59回一陽展（本展）　10月2日～14日
国立新美術館
新入選　眞崎桂子、大西暢子、畠山アイ
同・青麦賞　熊谷和子
会員推挙　高橋章子
●第7回グループ石川恭子絵画教室展
10月18日～11月6日　セリオンギャラリー
●第57回秋田美術作家協会　11月18日～21日
秋田市アトリオン
榎江里子、高橋章子、渡辺喜久蔵
入選　眞崎桂子
奨励賞　熊谷和子
●一陽会秋田展　12月12日～15日
秋田市アトリオン
石川恭子、榎江里子、大西暢子、熊谷和子、
菅野　操、高橋章子、眞崎桂子、渡辺喜久蔵
●創立・秋田国際美術家協会展
2014年1月4日～7日　秋田アトリオン　石川恭子
（渡辺喜久蔵　記）

福岡グループ
FUKUOKA

●第７回モナコ・日本芸術祭　3月8日
モナコ政府観光議局・モナコ政府文化庁
名誉賞　前田　睦
●ゴッホ生誕160周年記念シャンパン芸術祭
4月12日　東京ドーム（後楽園）
永遠のひまわり至宝芸術作品賞　前田　睦
●アートタイル至宝展ー古の偉人たちとの仏・日共演オブジェー　9月15日
ベルシー美術館（フランス）
前田睦の作品「月影」がアートタイルとして永久保存となる
●第59回一陽展　10月2日～14日　国立新美術館
会友推挙　生嶋香津子、則松順子
入選　山崎千代香
会員出品　前田　睦
（前田　睦　記）

岡山グループ
OKAYAMA

●岡山県若手作家育成事業Ｉ氏賞候補者展　1月
妹尾佑介　ノミネート

●**第51回関西一陽展**　3月　大阪市立美術館
関西一陽賞受賞　今浦　稔
大阪市教育委員会委員長賞受賞　後藤　杏
●**第25回泉谷淑夫個展**　岡山市アートガーデン
●**泉谷淑夫が描く岡山の風景展**　6月
川崎医療福祉大学ギャラリー）
●**第64回岡山県美術展**　9月　岡山県立美術館
審査員出品　泉谷淑夫
委嘱出品　前嶋英輝
地域奨励賞受賞　妹尾佑介
●**第59回一陽会展**　10月　国立新美術館
会員賞受賞　前嶋英輝
会友賞受賞　孫　鵬
会友推挙　妹尾佑介
特待賞受賞　今浦　稔
●**第10回小磯良平大賞展**　小磯良平記念美術館他
入選　泉谷淑夫
●**小磯良平大賞展回顧展**　神戸ゆかりの美術館
泉谷淑夫　優秀賞受賞作《顕現》出品
●**第4回陽のあたる岡展**　11月　岡山市アートガーデン
出品　泉谷淑夫、前嶋英輝、日向啓江、伊丹脩
孫　鵬、石原夕起子、瀧浦光樹、妹尾佑介
今浦　稔、皆見昌信、後藤　杏
（泉谷淑夫　記）

山梨グループ
YAMANASHI

●**峡北美術協会展**　5月　山梨県立美術館
中沢明子、市村四方子
●**山梨美術協会展**　6月　山梨県立美術館
三井正人
●**第59回一陽展**　推挙他
会員推挙　三井正人（彫刻部）
賞候補　市村四方子
●**やまなし県民文化祭**　11月　山梨県立美術館
三井正人、吉田光雄
●**山梨美術協会会員展**　2月　山梨県立美術館
三井正人
■**個人活動**
●**吉田光雄個展**　12月　おいでやギャラリー
●**市村四方子個展**　2月　おいでやギャラリー
（吉田光雄　記）

コラム『陽溜り』

一陽会の鴛鴦（おしどり）画家夫婦

絵画部会友の楠 忠臣・裕子夫妻に直撃インタビュー

一陽 編集子

第59回展で会友賞受賞の楠忠臣さん。夫人の楠裕子さんも、会友賞候補として、あと一歩というところまで肉薄…。惜しくも一陽会史上、初の会友賞夫婦同時受賞は成りませんでしたが、果敢な創作姿勢は千葉のおしどり水彩画家夫妻として大評判。実り多い2013年であったことでしょう。

金婚式も間近な結婚暦48年。その仲睦まじいことは、千葉支部で知らぬ者無し。夫妻が水彩画に手を染めた、そもそものきっかけは、一陽会委員の故・平賀正勝先生の県民絵画講座、日曜水彩教室の扉を叩いたことに始まる。やがて精進の甲斐あって、夫婦共に相前後して奨励賞を受賞し、会友推挙となります。互いに良きライバルとして励まし合って制作する日々…。

時には互いの絵を批評し合うことも…しかしそこは、永年の夫婦ならではの機微、批評が昂じて一線を越える寸前で、ニッコリ笑って引き分けにするとか…100号の大作は、お互い別々の部屋で、じっくり描くことにしているとのこと。夫婦円満の秘訣はどうやらその辺りにありそうですね。忠臣さんは10年来のテーマ、樹齢数百～数千年の神代桜、裕子さんの主題は、高層ビルと現代彫刻の情景を、ハードタッチで描いています。御夫婦の益々の御活躍を祈念して止みません！。

会友楠忠臣・裕子夫妻。千葉市の画廊ギャラリー金巴里にて。撮影・小沼由理子会友

★次回原稿締め切り★
2015年1月末日

〒262-0013　千葉市花見川区犢橋（こてはし）町62−41
Tel&Fax 043（286）5236山田　久子まで

彫刻部研修会報告

彫刻部運営委員　中村　義孝　彫刻部会員　土井　敬真・安田　操

2013年12月7日㈯14：00～16：00
国立新美術館3F研修室
主催：一陽会彫刻部
後援：ヴェナンツォ・クロチェッティ財団

講演題名
ヴェナンツォ・クロチェッティ生誕100年
イタリア彫刻の魅力
―ヴェナンツォ・クロチェッティの作品を中心として―
講師　千葉大学教授　上村清雄氏

一陽会彫刻部の研修会は1999年から始まり今回で１５回目になります。秋の一陽展が彫刻作品を通して主に制作に関した研鑽の場であるのに対し、冬の研修会は講演等を聞くことによって見聞を広める場となっています。時折りの関心事についてテーマを設定し、専門家を招いて講演を依頼したり、その年話題となった一陽会彫刻部会員に講演をしていただいたりと工夫を凝らして研修会を運営してきました。

今年（2013年）は現代イタリア彫刻の巨匠であるヴェナンツォ・クロチェッティの生誕100年の年に当たります。昨年から世界各国を巡回した展覧会が、最後にイタリアのベネチア宮殿にもどり大規模な展覧会として今年の9月に開催され大きな反響を呼びました。日本では昨年箱根彫刻の森美術館といわき市美術館で展覧会が行われ、その作品は堅実な造形感覚と大胆な形態の処理で日本の若い彫刻家の間でも話題となりました。そこで今回の研修会のテーマは彫刻家ヴェナンツォ・クロチェッティを取り上げ、彼の生きた時代や、影響を受けた彫刻家等も含めて考えることとしました。講演はクロチェッティの研究においては著名な千葉大学教授上村清雄先生にお願いし、一陽会彫刻部に限らず興味のある方は誰でも参加できるようにしました。より多くの人たちに具象彫刻の素晴らしさを知ってもらうため、関東地区の大学・美術館にはリーフレットを配布し参加を呼びかけました。このような活動は一陽会彫刻部における芸術文化貢献活動として位置づけ、今後力を入れていかなければならないと考えています。

講師　千葉大学教授　上村清雄氏

講演内容は19世紀から20世紀に移行する彫刻界における新しい展開をロダンとロッソを挙げて概説し、イタリアの芸術運動であった未来派の特質などについてもわかりやすく解説していただきました。またクロチェッティに影響を与えたマルティーニや、同世代の彫刻家の造形観についての考察も行い、それらの背景を踏まえてクロチェッティの彫刻の特質について語っていただきました。講演は1時間30分にも及びましたが先生の歯切れの良い語り口に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。その後、質疑応答が活発に行われました。参加した学生からは、かなり専門的な質問も出され、意見交換がなされました。参加者は35名。その内一陽会彫刻部が19名で、外部からは16名の参加がありました。年末の忙しい時期にも関わらず、筑波大学、群馬大学、女子美術大学の教員・学生の方々や、ヴェナンツォ・クロチェッティ財団日本事務所でもあるアートシードからも参加していただき実りある研修会となりました。

2013年12月

めぐりあいから生まれた、美の真髄

一陽会と高島屋

昨年（2013）4月1日～6月25日
大阪高島屋史料館にて開催

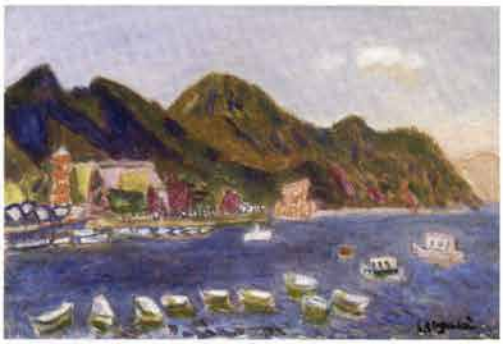
《一陽会と高島屋》

昭和30年鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根が中心になり、「二科会」を脱会し、「一陽会」を旗揚げしました。当時の画壇ではセンセーショナルな事件でしたが、高島屋は東京店・大阪店を会場に提供するなど全面的に支援しました。それには「一陽会」の高岡徳太郎と高島屋の当時の社長飯田慶三の関係が大きいといわれています。慶三と高岡は旧制堺中学の先輩・後輩でありそれが縁で高島屋の宣伝部に席を置いていた時期もありました。慶三も油絵が趣味で自身も「一陽会」の会員となり第3回の一陽展から出品をしています。高島屋のシンボルフラワーにバラを採用したのも慶三で、今では高島屋といえばバラを思い浮かべる程、バラのイメージが定着しています。

野間仁根「野艸」

飯田慶三「陽のあたる坂道」

髙岡徳太郎「会長肖像」



鈴木信太郎「宮島（朝）」

美術界の発展と新人作家の発掘を願って…

第10回小磯良平大賞展＝尾島守会員が佳作賞受賞

2013年10月13日～12月8日　**神戸市立小磯記念美術館**

「あなたの行先はどこか。Ⅱ」
162.1×162.1cm　合成うるし、油彩

「小磯良平大賞展 佳作賞受賞」　尾島　守

まずはお礼から、ありがとう御座いました。今回小磯良平賞展に出品しました作品は、ここ数年一陽会で発表させて頂きました作品の集大成です。

若いころから人付き合いが苦手で、あまり展覧会場で人と話しをしたり聞いたりすることをしませんでした。東京や大阪の若手の人たちからは、長い間「作品は知っているけどどんな人なんだろう。」と言われていたとのことでした。最近やっと関西で会の運営のお手伝いをさせて頂き、なぜもっと若いときから先生方と話したり聞いたりしなかったのだろうと後悔しています。今回の佳作賞作品は東京の会場での話しに後押しされたものです。ここ3年ほど建物を見上げて描いています。エスキースを考えるために早朝の道路に寝転がって石造りの建物を見上げていると上下という感覚はありません。しかし、正方形の画面の中に構図を組み立てていると自然と上下が出来てきます。でも、「どっちが上でもいいような気がする。」と常々考えていましたが、いざ、はじめに決めた上下を変えるには、なかなか踏ん切りがつきませんでした。そんな中、新国立美術館で「この作品こっちが上でも面白いよ。」と、数名の先生方から言われました。この言葉で踏ん切りがつき今回の作品が仕上がりました。

人に認められることは励みになります。制作中の投げ出したくなる苦しさ、『生みの苦しみを知る者』からの言葉はやさしく自分の心に響き背中を押して頂けます。ありがとう御座いました。これからもよろしくお願いします。

企画・発行／一陽会
編集責任／細川　尚（一陽会事務所）　原稿担当／山田久子
写真提供／福田利明・アートデザインセンター・福家省造
制作・印刷／大和美術印刷株式会社　発行日／2014年4月10日

一陽会事務所
〒292-0402 千葉県君津市西原 502−1
Tel&Fax 0439−35−2849
http://www2.ucatv.ne.jp/～itiyokai.snow/